

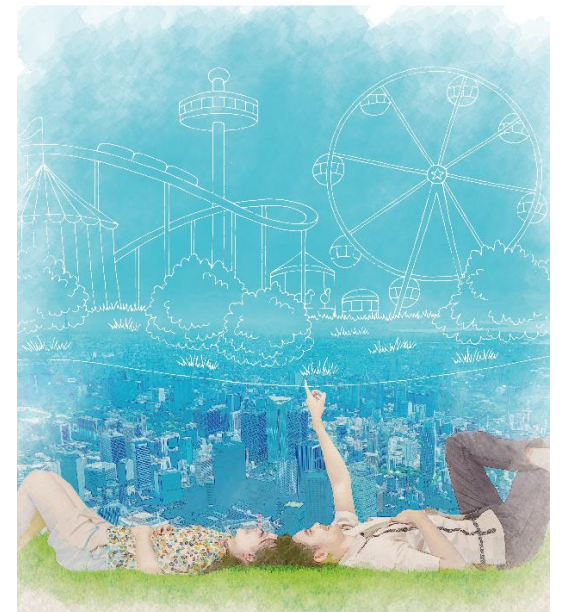
個人投資家の皆さまへ

SOMPOホールディングスの経営戦略

2022年10月19日

SOMPOホールディングス株式会社

(証券コード：8630)



本日のキーメッセージ	2	国内生保事業	
1. SOMPOホールディングスとは		ひまわり生命の特徴	25
会社概要	4	Insurhealthを基盤とした成長	26
SOMPOホールディングスの沿革	5	介護・シニア事業	
業績拡大の軌跡	6	SOMPOケアの特徴	27
過去10年間の成長投資	7	介護現場の課題解決への貢献	28
事業ポートフォリオの変遷	8	3. 中長期的な成長に向けて	
ROEおよび利益水準推移	9	社会課題の解決と成長	30
株主還元	10	介護業界の環境認識	31
財務健全性	11	SOMPOが目指す介護の「3方よし」	32
サステナブルな成長に向けて	12	介護RDP（リアルデータプラットフォーム）による“介護の未来を変えていく”挑戦	33
2. 事業別戦略		介護RDPの取組みと今後の展望	34
SOMPOグループの事業領域	14	企業価値の向上	35
国内損保事業		本日のキーメッセージ	36
国内の損保マーケットと商品構成	15	当社ホームページのご案内	37
自動車保険の収益性	16	参考資料	
通販型（ダイレクト）保険	17	トータル・シェアホルダー・リターン	39
国内における主な自然災害の保険金支払推移	18	グループ経営数値目標等	40
国内自然災害の業績への備え	19	主要財務数値（連結）	41
デジタル活用（1）	20		
デジタル活用（2）	21		
より安定的な利益創出を目指して	22		
海外保険事業			
海外保険事業の拡大の軌跡	23		
SOMPOインターナショナルを中心とした成長と展開	24		

本日お伝えしたいこと

- SOMPOホールディングスとは？どのように成長してきたのか？
- 事業別の戦略は？
- 今後どのように成長していく展望なのか？

1. SOMPOホールディングスとは

2. 事業別戦略

3. 中長期的な成長に向けて

4. 参考資料



SOMPO ホールディングス



グループCEO取締役
代表執行役会長

櫻田 謙悟



(2021年度末時点)

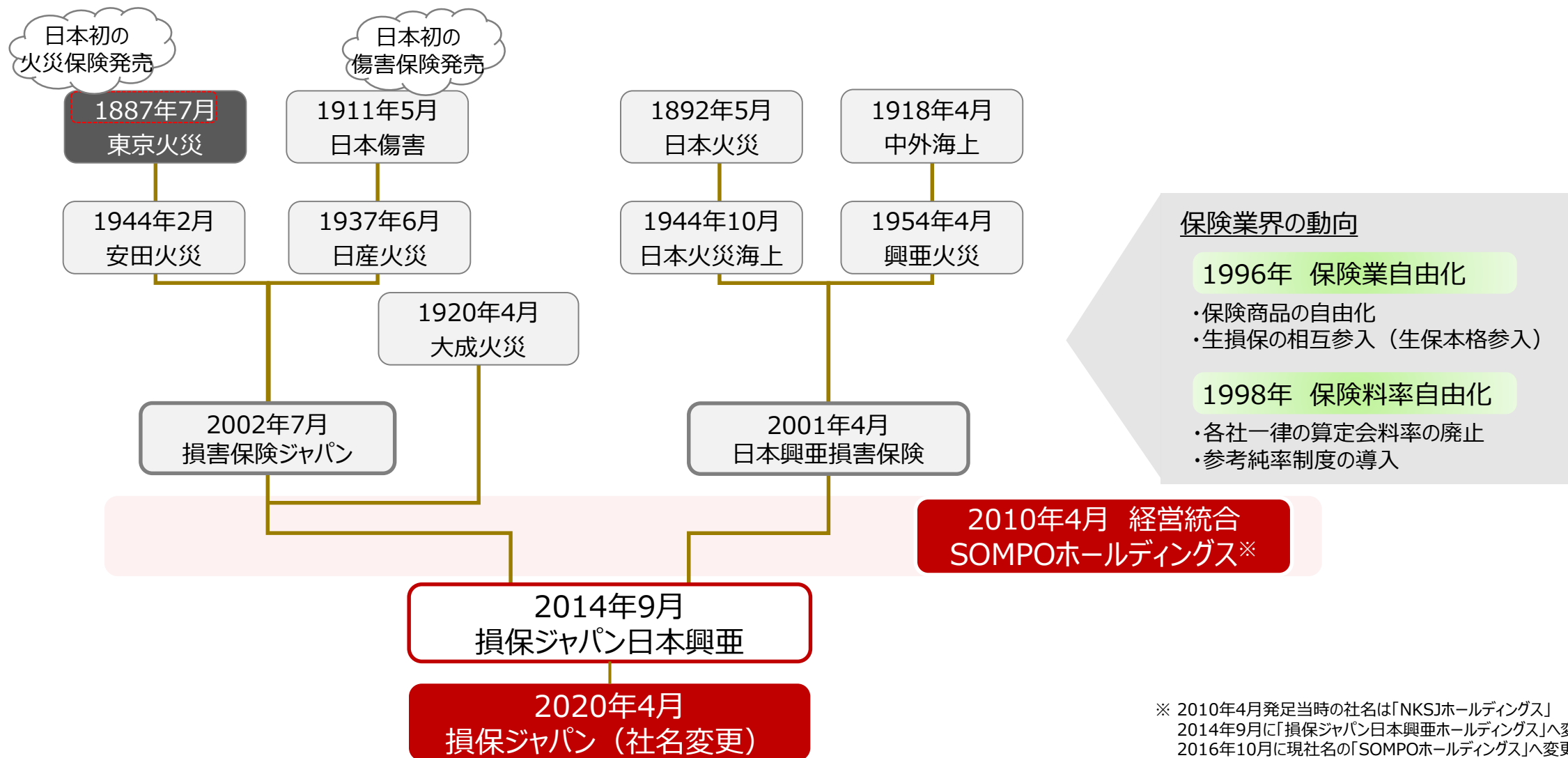
会社名	SOMPOホールディングス株式会社
創業 【持株会社発足】	1887年 【2010年4月】
本店所在地	東京都新宿区西新宿1-26-1
証券コード	8630 (東証プライム市場)
主業態	保険業
連結経常収益	4兆1,674億円
連結純利益	2,248億円
従業員数 (連結)	7万3,676人
株価	5,381円
時価総額	1兆8,710億円
連結ROE	11.1%
総資産	13兆7,878億円
純資産	2兆0,407億円
予想配当利回り ^{※1}	4.8%
予想PER ^{※2}	11.6倍
PBR	0.91倍

※1 2022年度予想配当ベース (株価は2021年度末時点)

※2 2022年度業績予想連結純利益ベース

SOMPOホールディングスの沿革

- 火災保険や傷害保険を日本で初めて発売した、130年を超える歴史を持つ保険グループです。

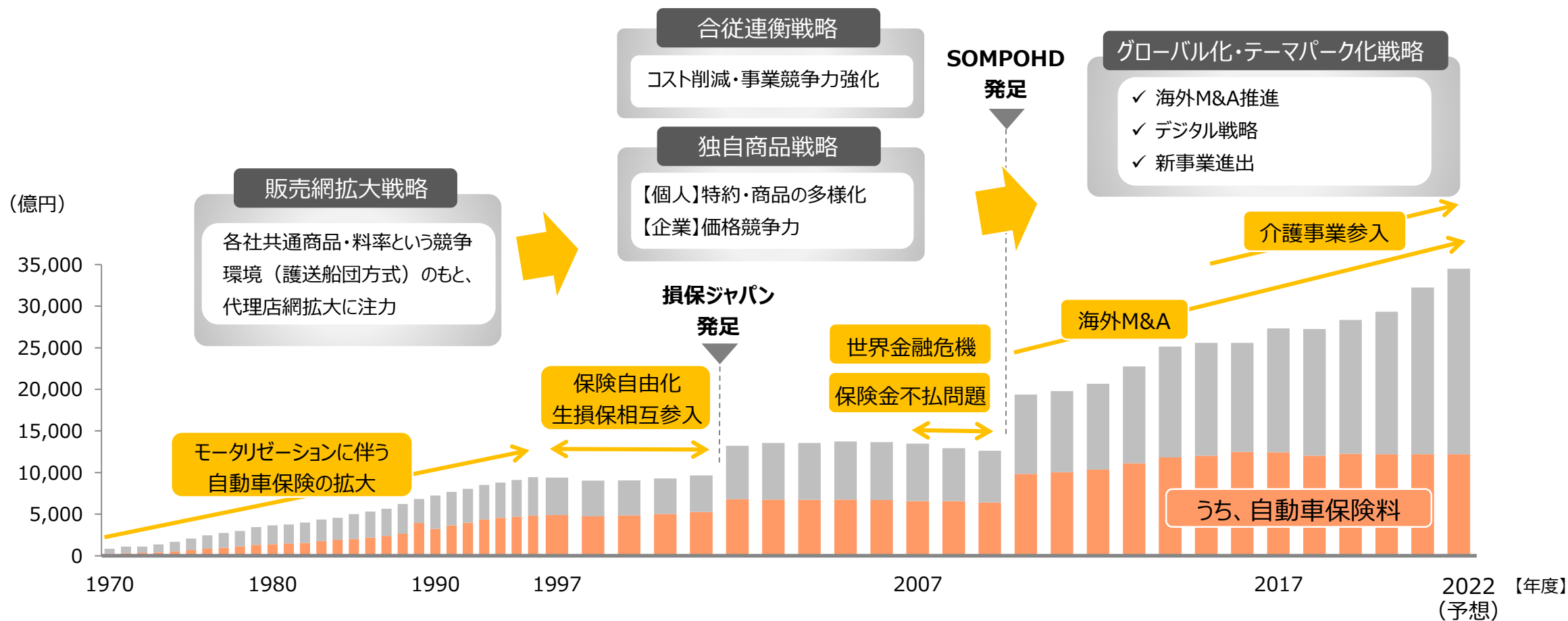


※ 2010年4月発足当時の社名は「NKSJホールディングス」
2014年9月に「損保ジャパン日本興亜ホールディングス」へ変更、
2016年10月に現社名の「SOMPOホールディングス」へ変更

業績拡大の軌跡

- 時流を捉えるとともに、効果的な経営統合などを通じて正味収入保険料は順調に拡大しています。

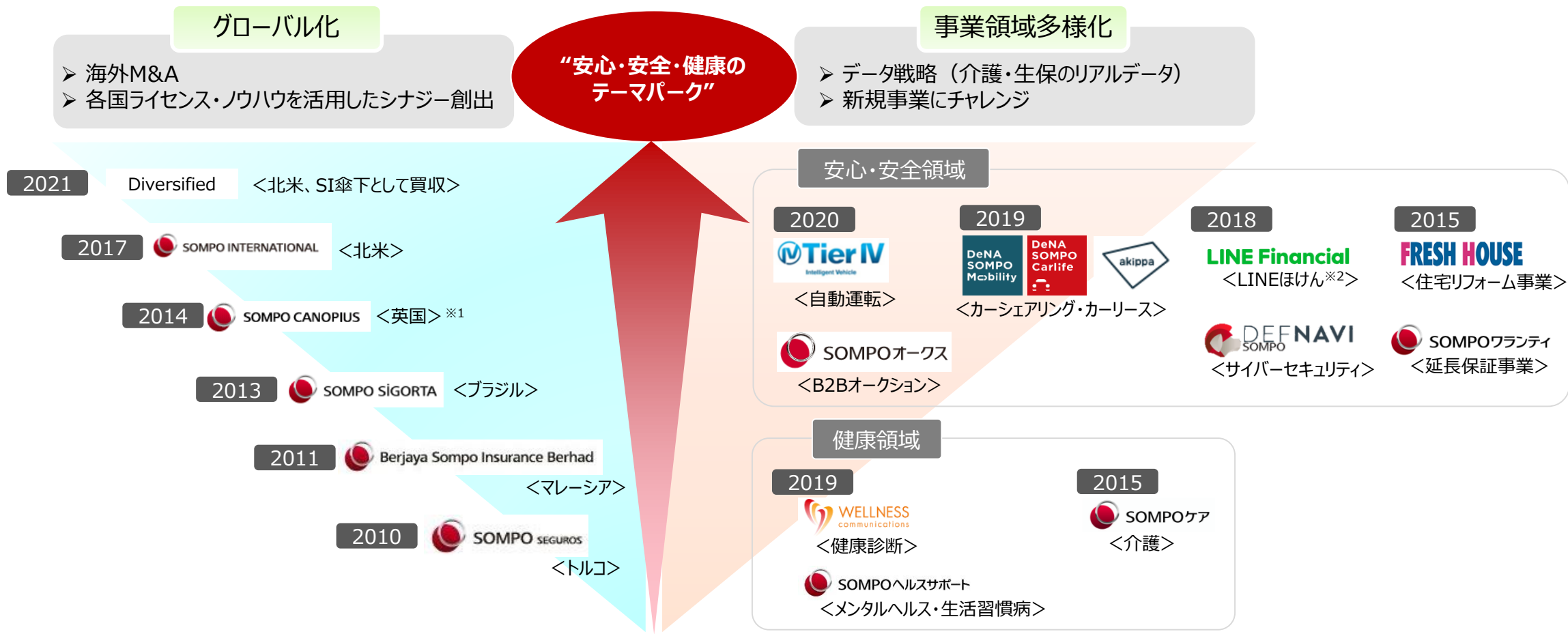
正味収入保険料（損害保険事業）



※ 存続会社（安田火災、損保ジャパン）の正味収入保険料、SOMPOホールディングス設立（2010年度）後は連結ベースの正味収入保険料を掲載
 ※ SOMPOホールディングスの正味収入保険料は国内生保事業の収入保険料（生命保険料）を含まない

過去10年間の成長投資

- 海外M&Aや各国でのシナジー創出を通じた海外事業の拡大がグループの成長を牽引しつつ、リアルデータを用いたデータ戦略など、保険の枠にとどまらないグループへの進化を目指しています。
- 保険と親和性の高いモビリティやヘルスケアなどの新たな領域にもチャレンジしています。

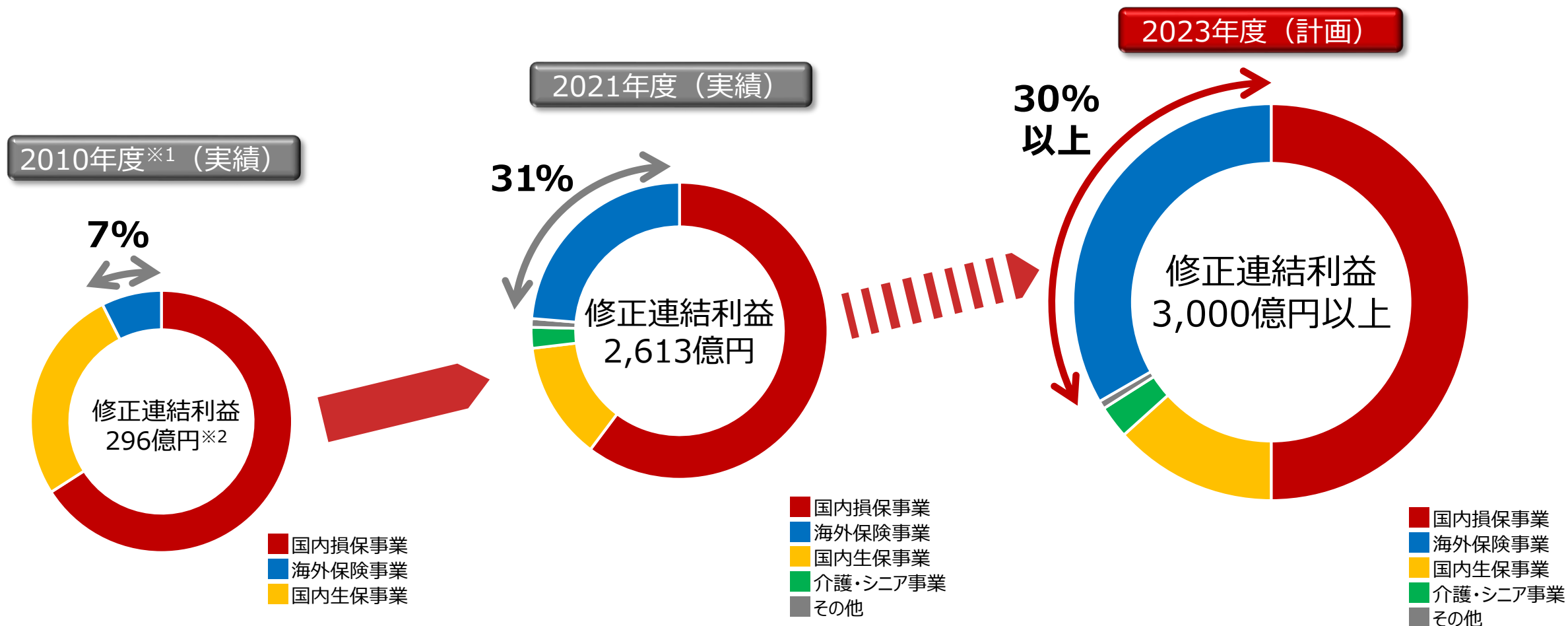


※1 2018年に売却

※2 サービス提供は2023年5月末終了予定

事業ポートフォリオの変遷

- 規模と分散の取組みにより、事業ポートフォリオに占める海外保険事業の割合が安定的に30%以上となることを目指します。
- 加えて、新たなサービス・事業の創出を通じ、事業ポートフォリオの変革を図ります。

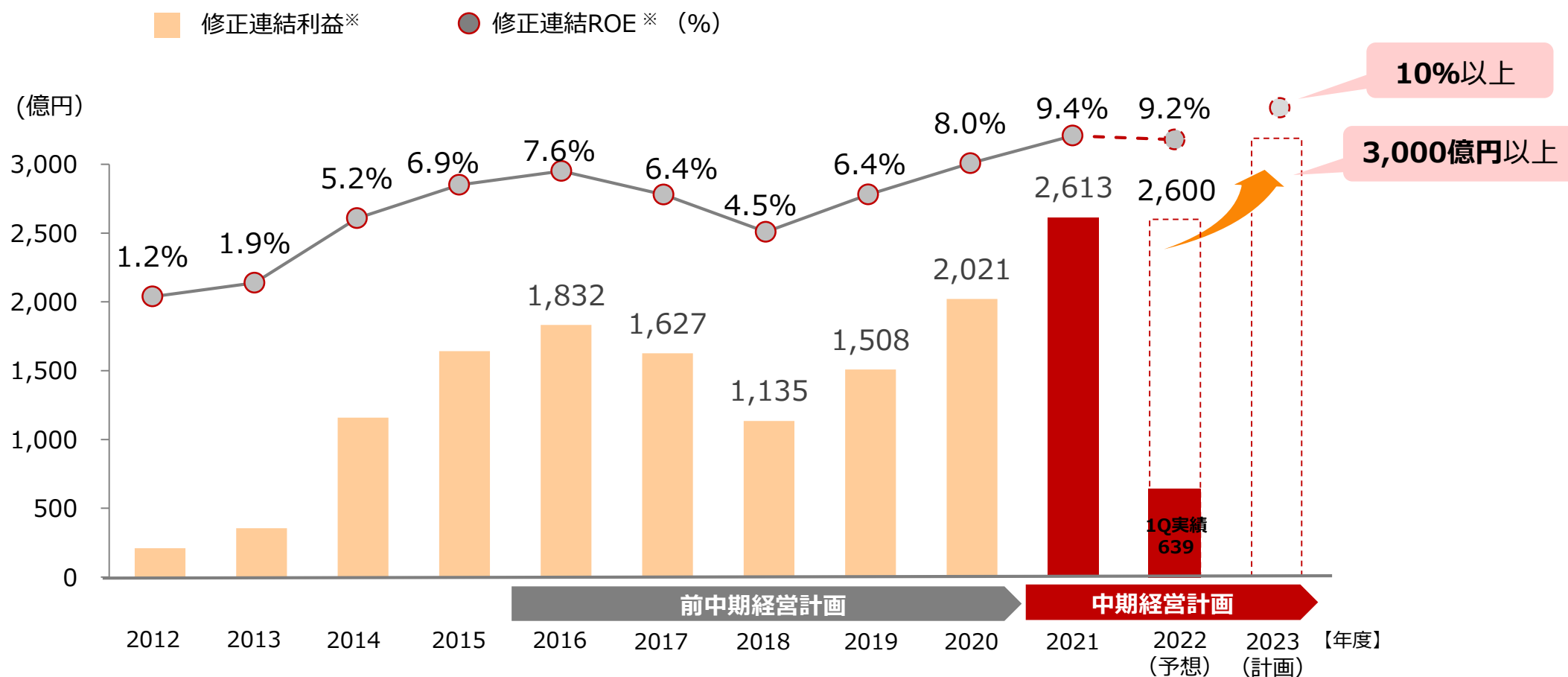


※1 SOMPOホールディングス発足年度 ※2 現在の修正連結利益定義をベースとした試算値

ROEおよび利益水準推移

- ・ 着実にROEを改善させつつ、利益水準を拡大しています。
- ・ 2023年度には、修正連結利益3,000億円以上、修正連結ROE10%以上を目指します。

修正連結ROEおよび修正連結利益水準推移

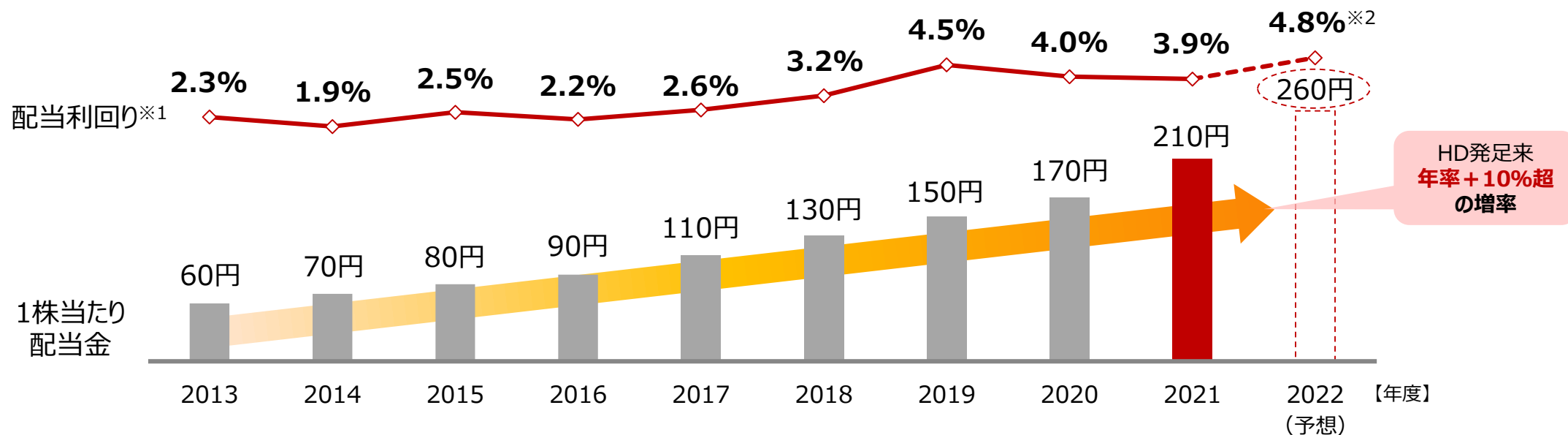


※ 財務会計上の数値をベースに、より会社の実力値に近くなるよう補正した利益（2015年度以前の数値は2016年度の修正利益定義をベースとした試算値）

株主還元

- 修正連結利益の50%を基礎的な還元とし、資本の状況などを踏まえて追加的な還元も行います。
- 2022年度は9期連続の増配を予定、魅力ある配当利回りを提供していきます。

配当利回りおよび1株あたり配当金の推移



総還元性向※3	220%	50%	50%	50%	50%	72%	60%	50%	58%	—
年度末株価	2,652円	3,735円	3,188円	4,079円	4,282円	4,098円	3,343円	4,242円	5,381円	—

※1 配当利回り=配当総額/年度末株式時価総額

※2 株価は2022年3月末時点

※3 自己株式取得を含む

財務健全性

- 強固な財務基盤により高い格付けを維持しています。
- 財務健全性を示す指標であるESR^{※1}は255%と、まったく問題のない水準です。

格付け（損保ジャパン^{※2}）

2022年9月末時点

S&P
A+
(安定的)

Moody's
A1
(安定的)

格付投資情報センター
(R&I)
AA
(安定的)

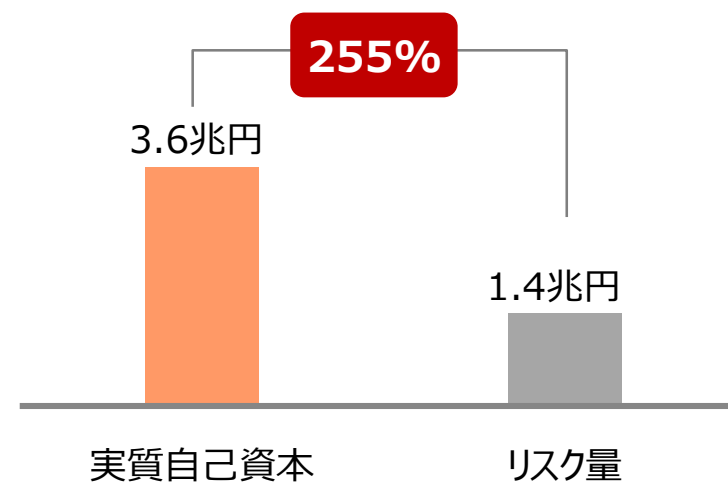
日本格付研究所
(JCR)
AA+
(安定的)

A.M. Best
A+
(安定的)

※2 SOMPOホールディングスは格付けを取得していない

財務健全性：ESR（エコミック・ソルベンシー・レシオ）

2022年6月末時点

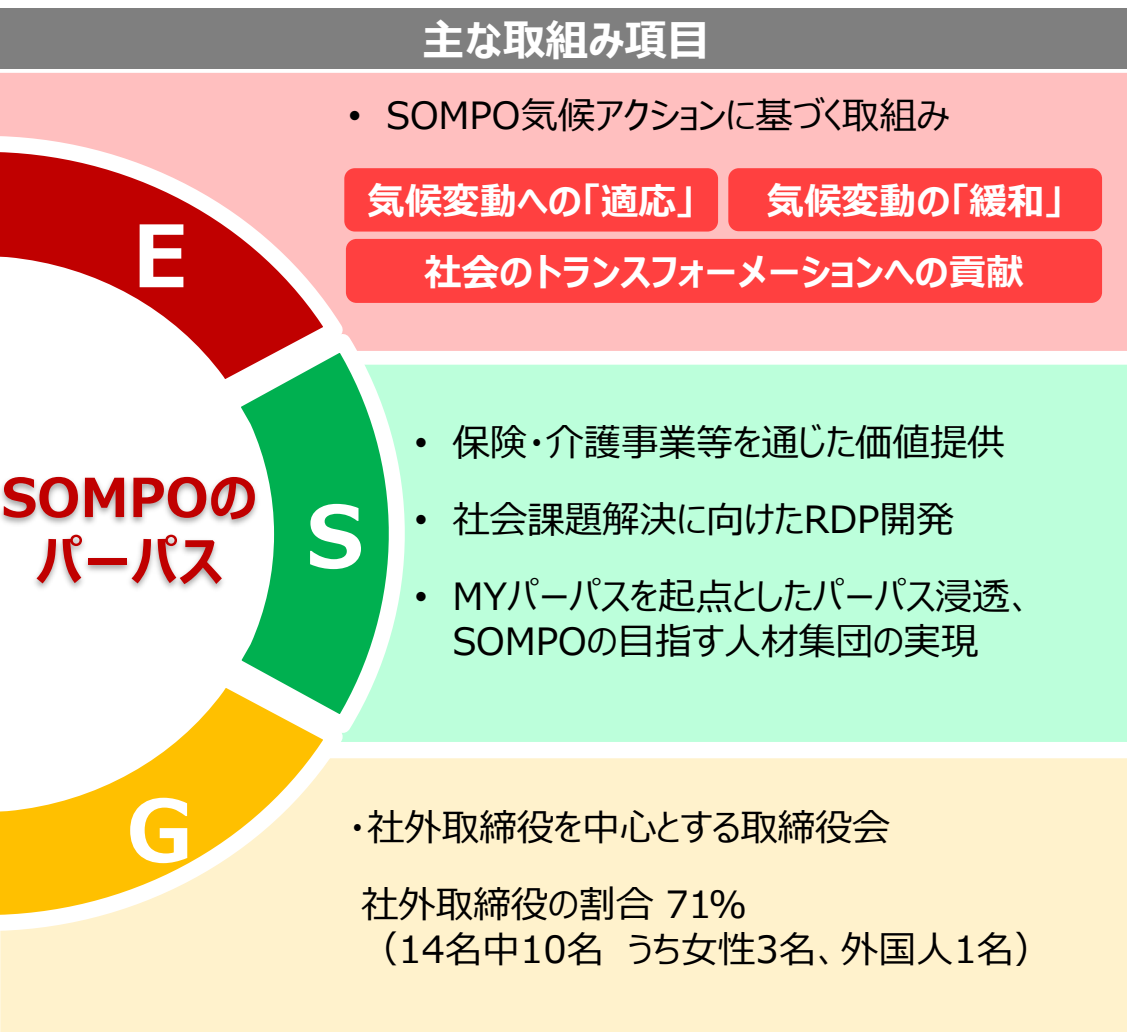


※1 ESR（エコミック・ソルベンシー・レシオ）

リスク（99.5%VaR）に対して、自己資本がどの程度あるかを表す指標
当社ターゲット水準は200%～270%としている

サステナブルな成長に向けて

- 社会課題の解決により持続可能な社会の実現に貢献するとともに、SOMPOのサステナブルな成長を追求していきます。



パーパスの実現

● 気候変動に関する取組みの強化

- 新たな温室効果ガス (GHG) 削減目標の設定
- 石炭・石油・ガス関連プロジェクト保険の引受制限強化
- 国際的イニシアティブへの参画 など

スコープ3 カテゴリー15 (投融資)

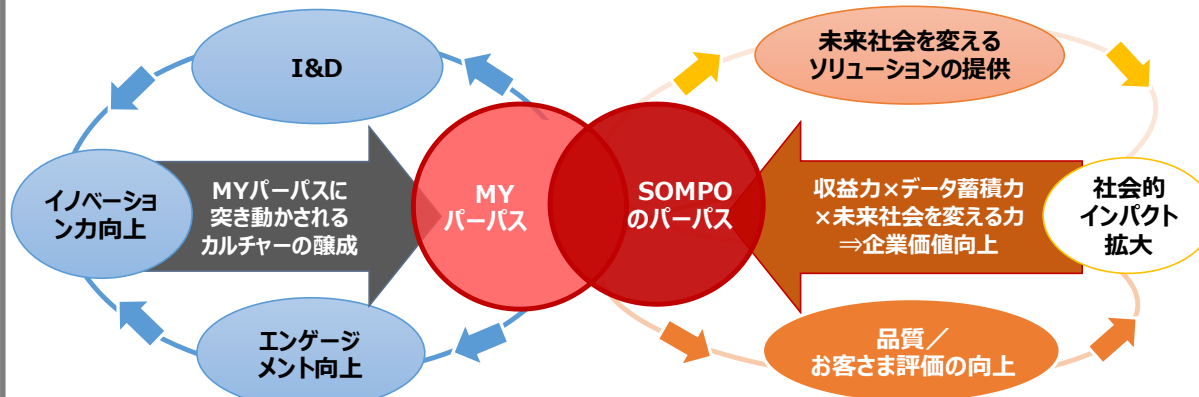
2025年25%削減*



※2025年3月末目標 (2019年度比)。株式・社債のGHG総排出量ベース。

● 未実現財務価値向上の取組み

- MYパーパスを原動力とした未実現財務価値の向上に向けた取組みを強化し、サステナブルな成長とSOMPOのパーパスを実現



1. SOMPOホールディングスとは

2. 事業別戦略

3. 中長期的な成長に向けて

4. 参考資料

SOMPOグループの事業領域

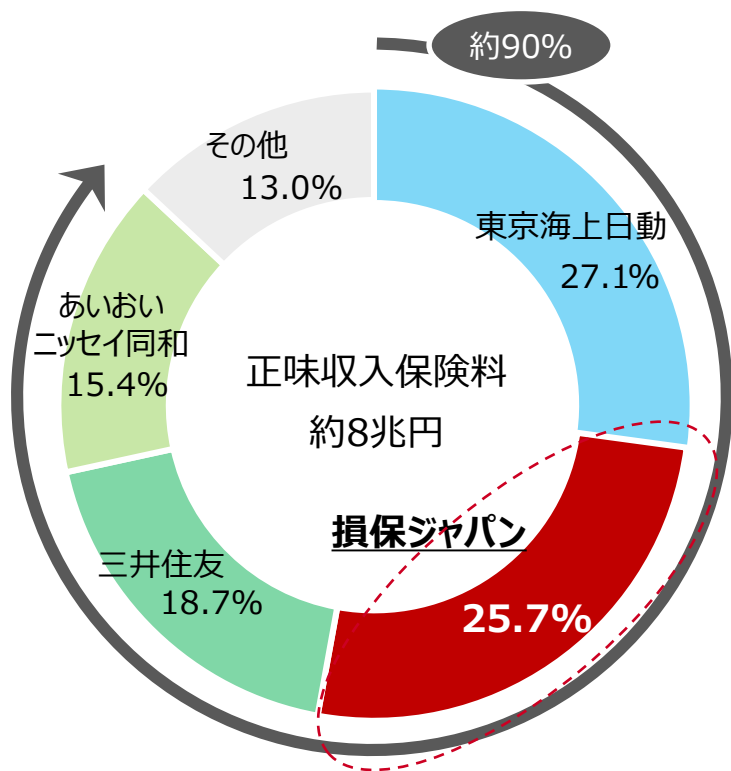
- 国内損保事業を起点とし、国内生保、海外保険、介護、デジタルと事業領域を拡大してきました。
- SOMPOグループの中で期待される役割は、事業によって異なります。



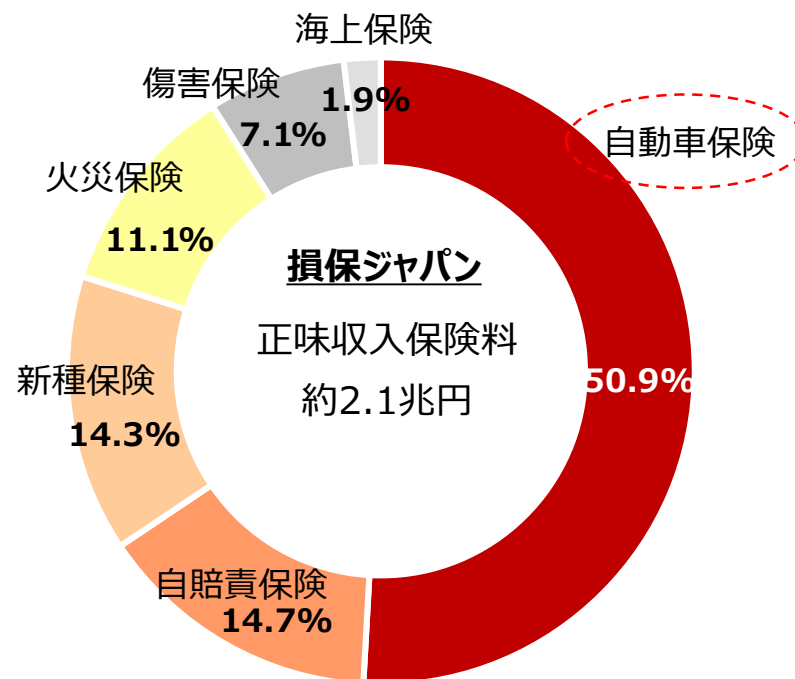
国内の損保マーケットと商品構成

- 国内の損保マーケットは、3メガ損保グループで約90%を占めています。
- 約5割を占める自動車保険や火災保険・新種保険などが主力商品です。

国内損保市場のマーケットシェア※（2020年度）



正味収入保険料内訳（2020年度）



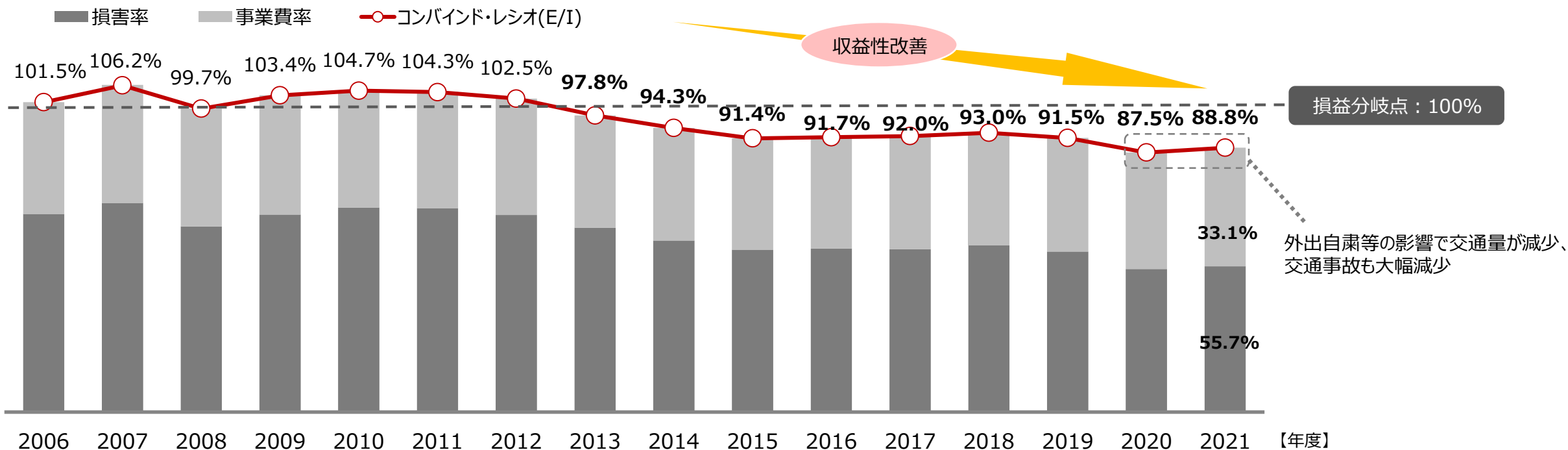
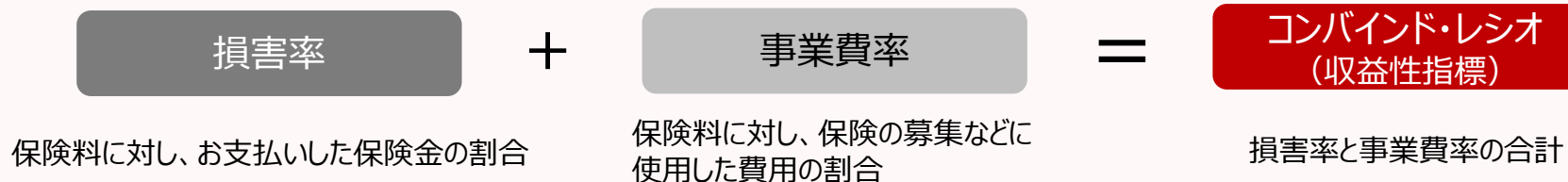
※出典：インシュアランス 令和3年版損害保険統計号

再保険会社を除く、国内に法人格又は支店を有する元受保険各社の国内正味収入保険料総額ベース

自動車保険の収益性

- 主力の自動車保険の収益性は、商品・料率改定の効果などにより改善し、安定しています。
- 保険料率は、参考純率制度に基づき、第三者機関が損害率に見合った水準を算出する規律ある仕組みとなっています。

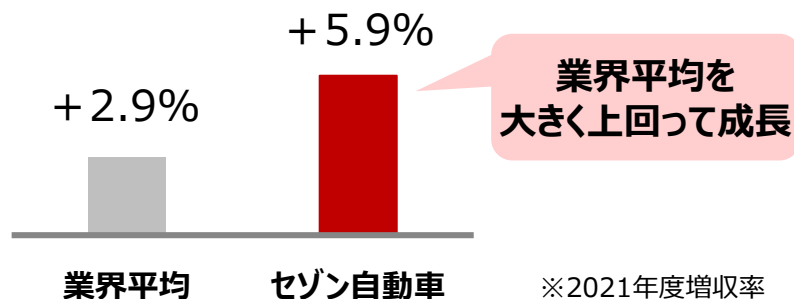
自動車保険のコンバインド・レシオの推移



通販型（ダイレクト）保険

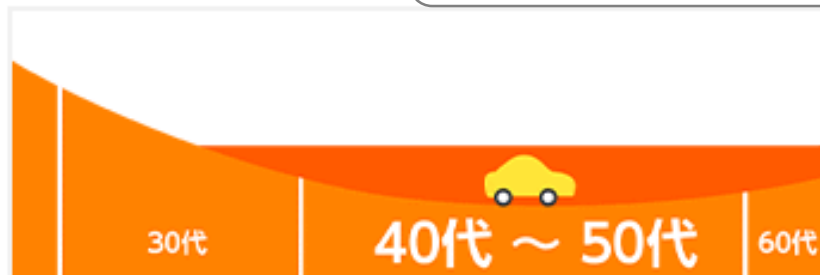
- 多様化するニーズにこたえるため、グループ内にダイレクト通販型保険会社のセゾン自動車火災を保有しています。
- 主力商品の『おとなの自動車保険』が好調、業界平均を上回る増収率で成長し、ダイレクト保険業界でも存在感を示しています。

ダイレクト通販自動車保険の増収率

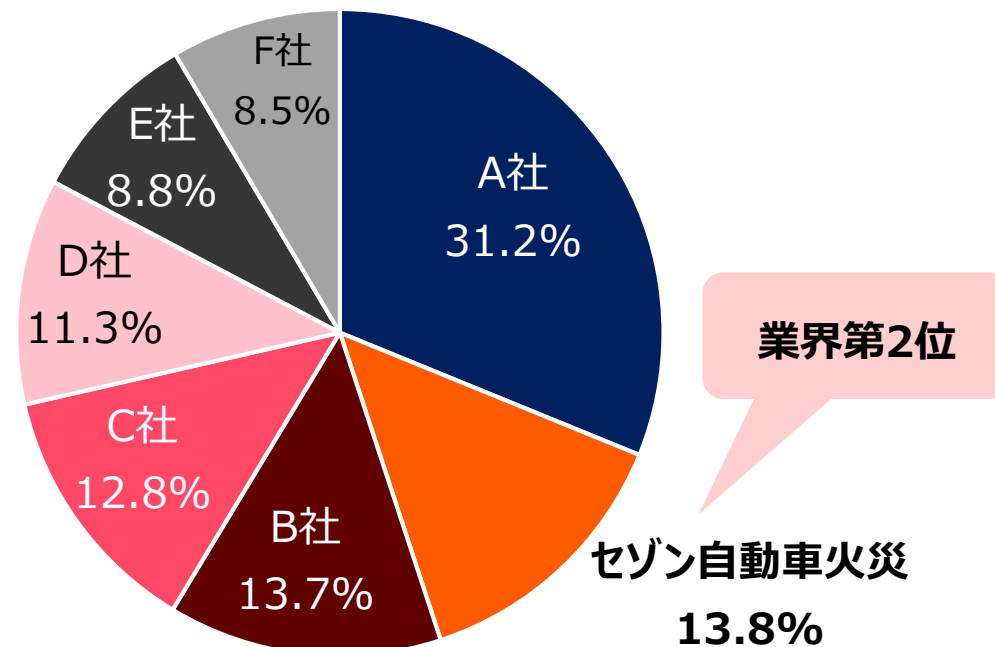


●● おとなの
●● 自動車保険

事故率が低い40代・50代の
保険料を割安に



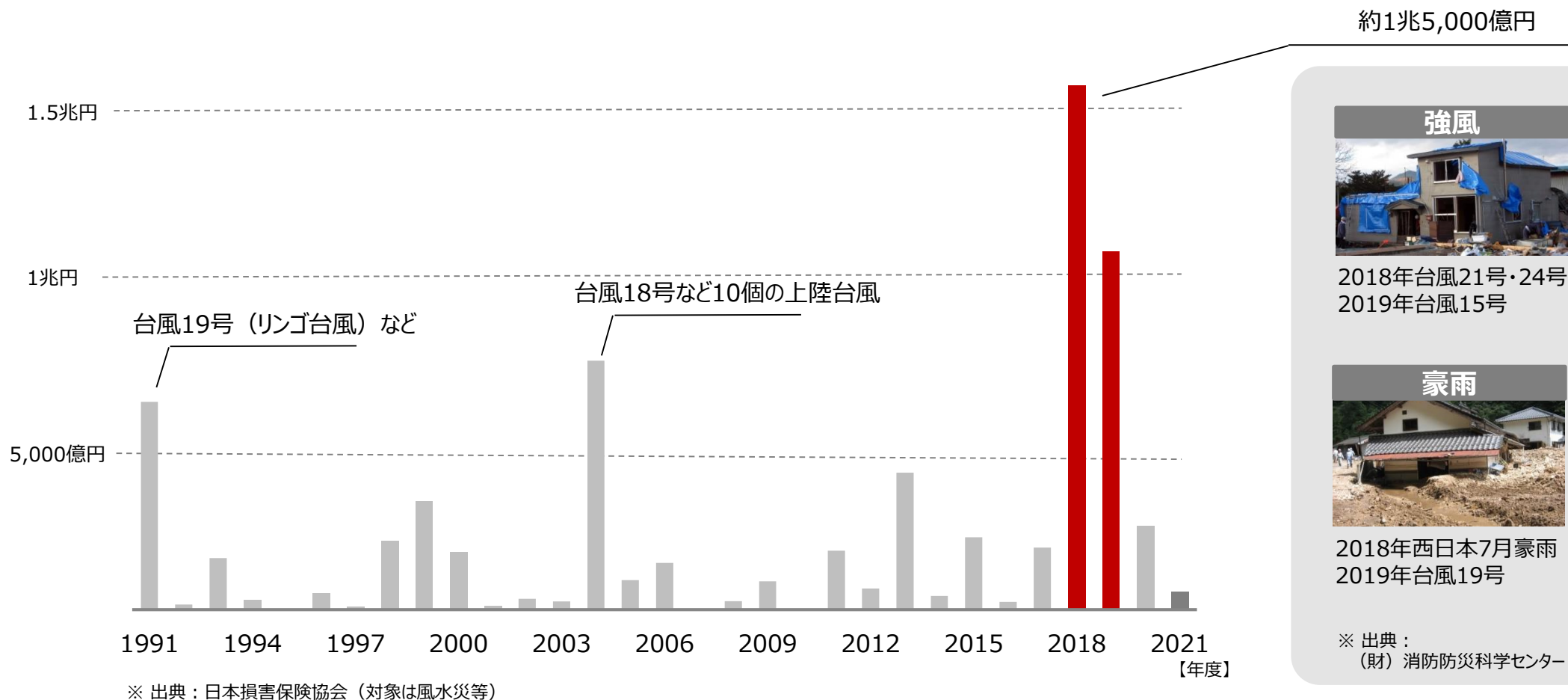
ダイレクト通販自動車保険のシェア(2021年度元受正味保険料)



国内における主な自然災害の保険金支払推移

- 2018年度・2019年度と、業界全体の主な国内自然災害による保険金支払は過去最大規模となりました。

業界全体の主な国内自然災害の元受支払保険金推移

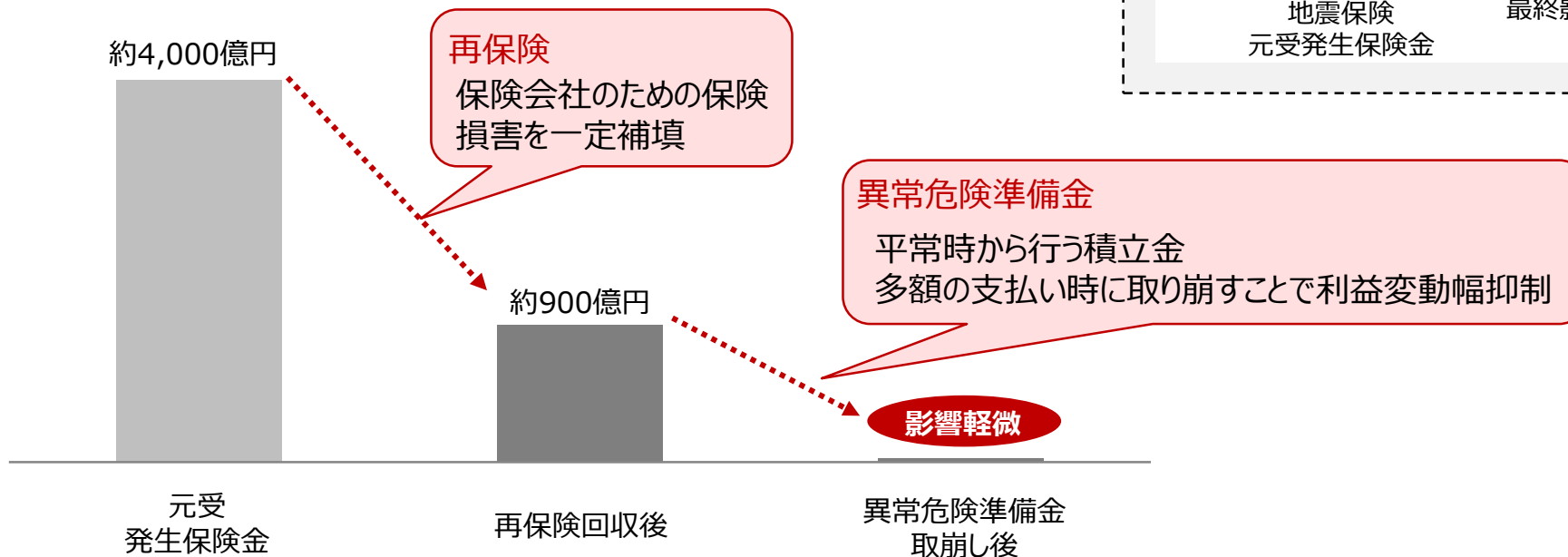


国内自然災害の業績への備え

- 大規模自然災害による単年度業績のブレや財務健全性への影響を最小限とするような様々な対策を講じています。

国内大規模自然災害の業績影響の低減策

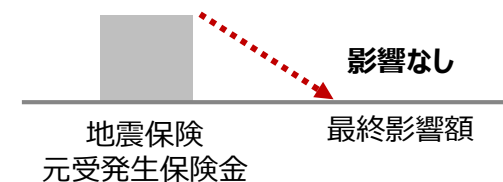
2019年度の当社業績影響イメージ



個人向け地震保険

政府による再保険などでバックアップ
→基本的に損害保険会社への業績影響なし

数百億円規模



デジタル活用（1）

- デジタル技術も活用しながらサービス向上に努め、お客さまから選ばれる損害保険会社として、グループへの安定的な収益貢献を果たします。

お客さまの安心のために



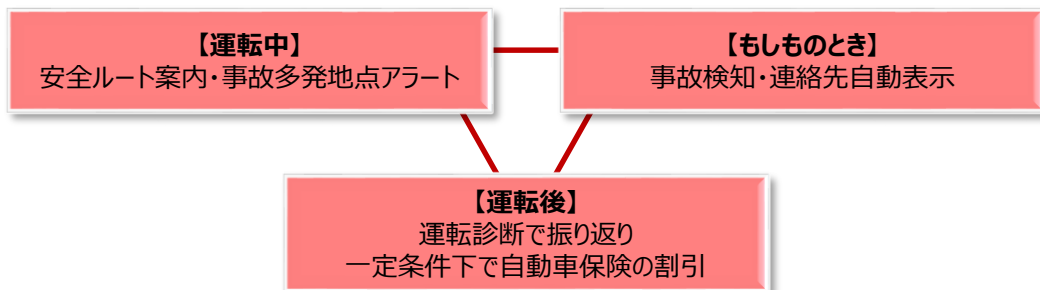
保険金支払・災害発生時の対応

全国286か所※の保険金サービス拠点で、約9,200人※の経験豊かなスタッフがサポート
大規模災害時は対策本部を設置し、DXも活用して迅速な対応に尽力

※ 損保ジャパン 2022年4月現在

自動車運転サポートアプリの提供

ドライバーの方の「安心」「安全」「快適」な運営を支援するため、誰でも無料でご利用いただける個人向けスマートフォン用カーナビアプリを提供



保険金支払における新たなサービスの構築

スマートフォン撮影画像による概算保険金の提示

ペットボトルとともに撮影した被害箇所の画像データをもとに、概算保険金を自動算出



AIによる保険金支払の自動判定システムの開発

保険金支払担当者による判断を経ずに、事故受付から保険金の請求手続きまでをシームレスに行うことが可能に

※ 開発中のサービス

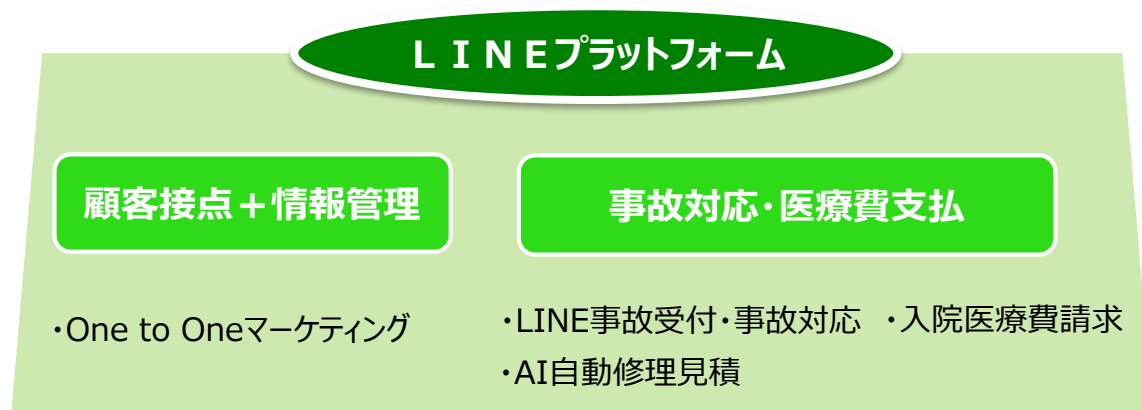


デジタル活用（2）

- 従来の枠組みにとらわれない、「お客さまとの新しいつながり方」「新たな商品・サービス」を拡大していきます。

LINEプラットフォームの構築

保険証券の管理のほか、万が一の際には事故受け付けから保険金のお支払いまでLINEアプリ上で完結できる体制の構築



「いつでも」「どこでも」保険証券が参照できる

LINE上で保険金請求が完結

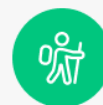


「PayPayほけん」への商品提供

キャッシュレス決済サービス「PayPay」のアプリ内から簡単に保険に加入できる「PayPayほけん」への商品提供

PayPayほけん

時間単位型自動車保険などシンプルでわかりやすい保険商品提供



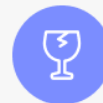
あんしんアウトドア



あんしんドライブ



あんしん自転車



あんしん賠償



あんしんゴルフ



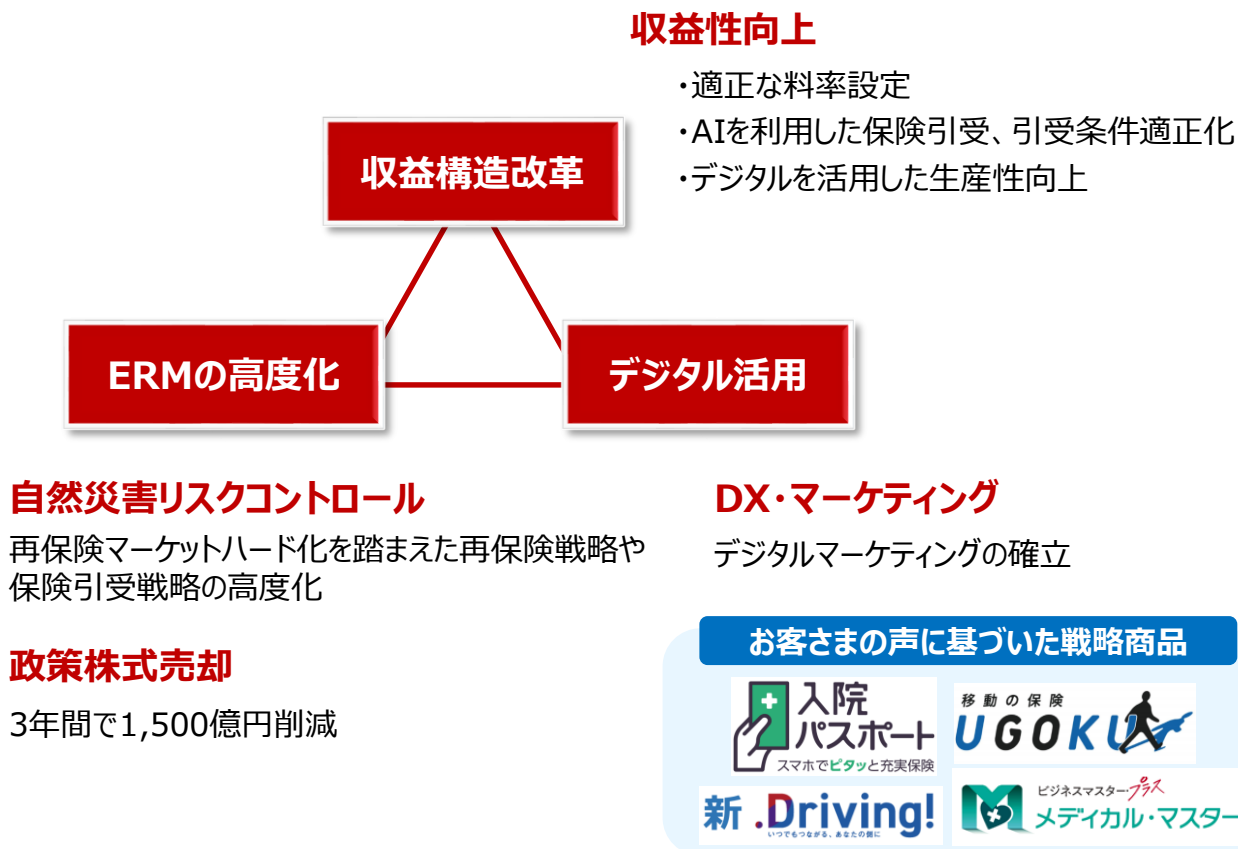
あんしんスキー&スノボ

- ✓ ご加入手続き、保険金請求のご連絡はスマートフォンで簡単に対応可能
- ✓ 保険料はPayPay残高で決済可能
- ✓ ご加入でPayPayポイントがたまる

より安定的な利益創出を目指して

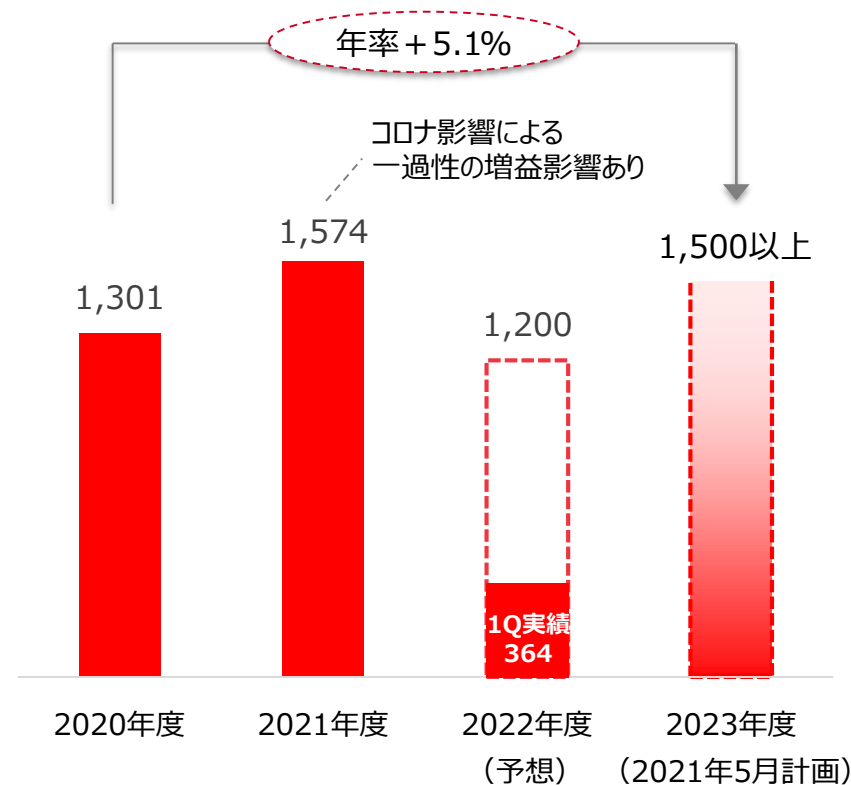
- 収益性向上、リスク削減などにより安定的な利益を創出し、グループの成長を支えています。

利益の拡大と安定的なキャッシュ創出のための取組み



国内損保事業の修正利益

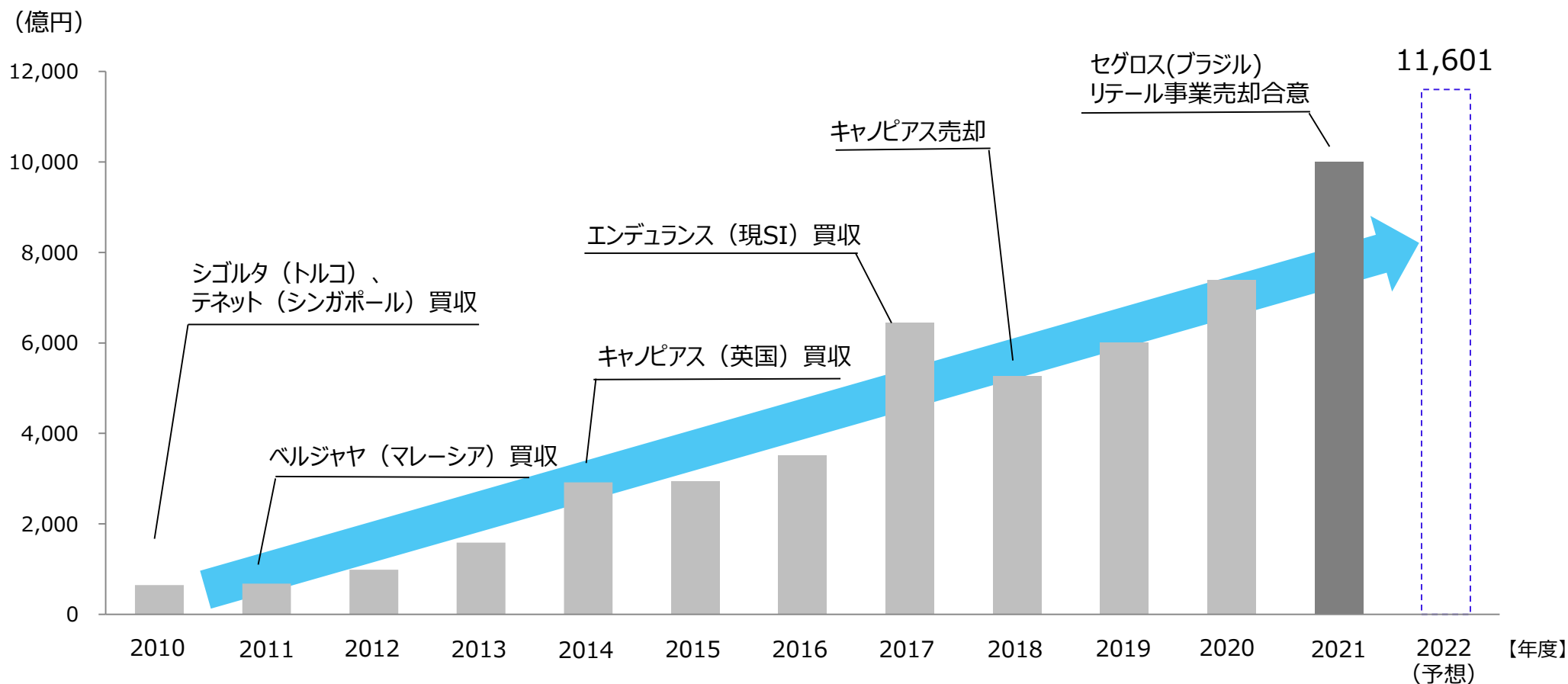
(億円)



海外保険事業の拡大の軌跡

- 先進国を中心に海外保険事業を展開しています。
- オーガニック成長とM&Aによる非連続的な成長に加え、持続的成長に向けた最適ポートフォリオの構築を追及しています。

正味収入保険料の推移



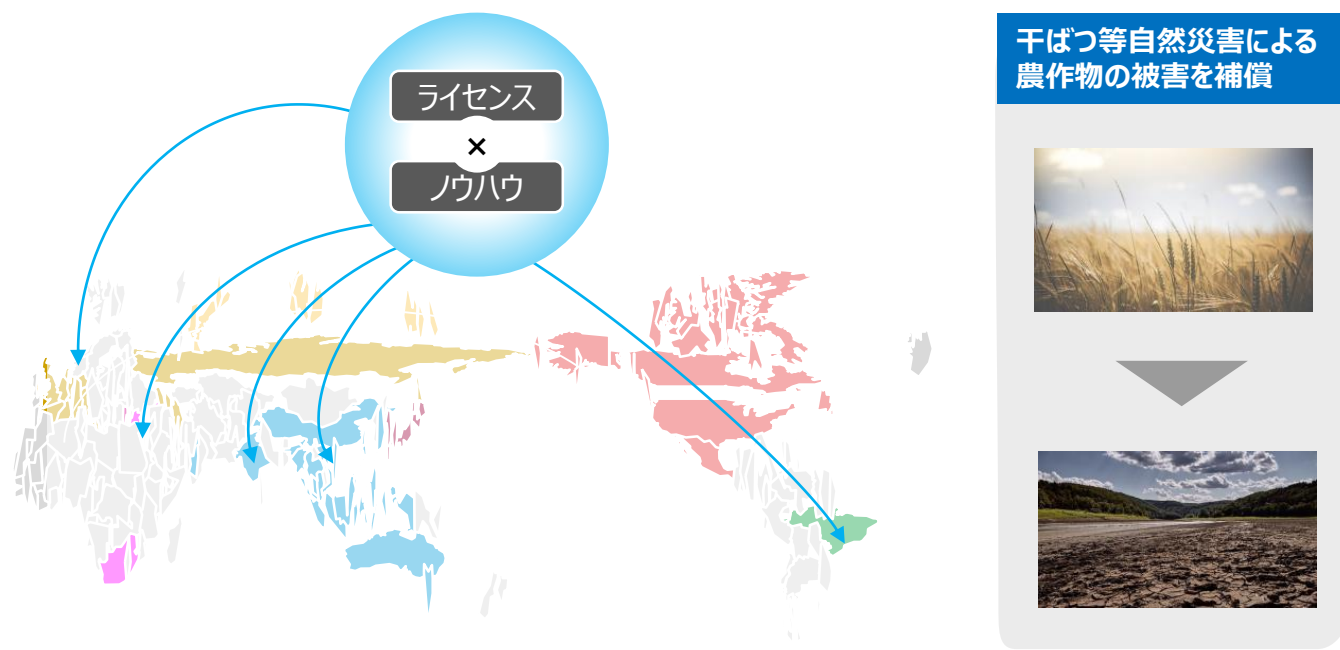
SOMPOインターナショナルを中心とした成長と展開

- SOMPOインターナショナル（SI）の専門性の高い企業向け商品や農業保険を各国に展開し、事業の成長を加速させています。

SIのグローバルプラットフォーム化

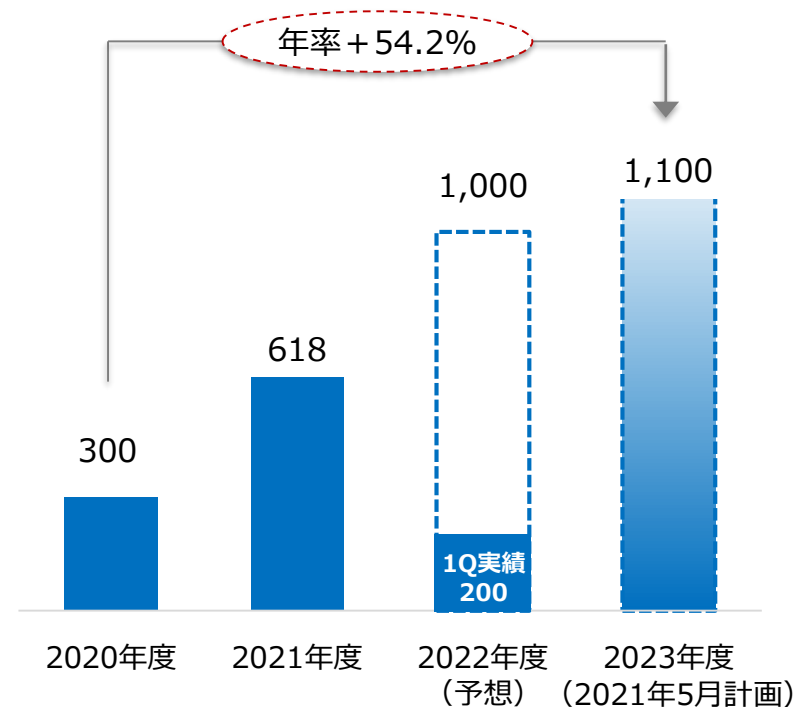
SIを核に、29か国・地域※におよぶSOMPOのライセンスを活用した専門性の高い保険商品をグローバル展開

AgriSompoとして展開する農業保険の実績は**世界トップクラス**



海外保険事業の修正利益

(億円)

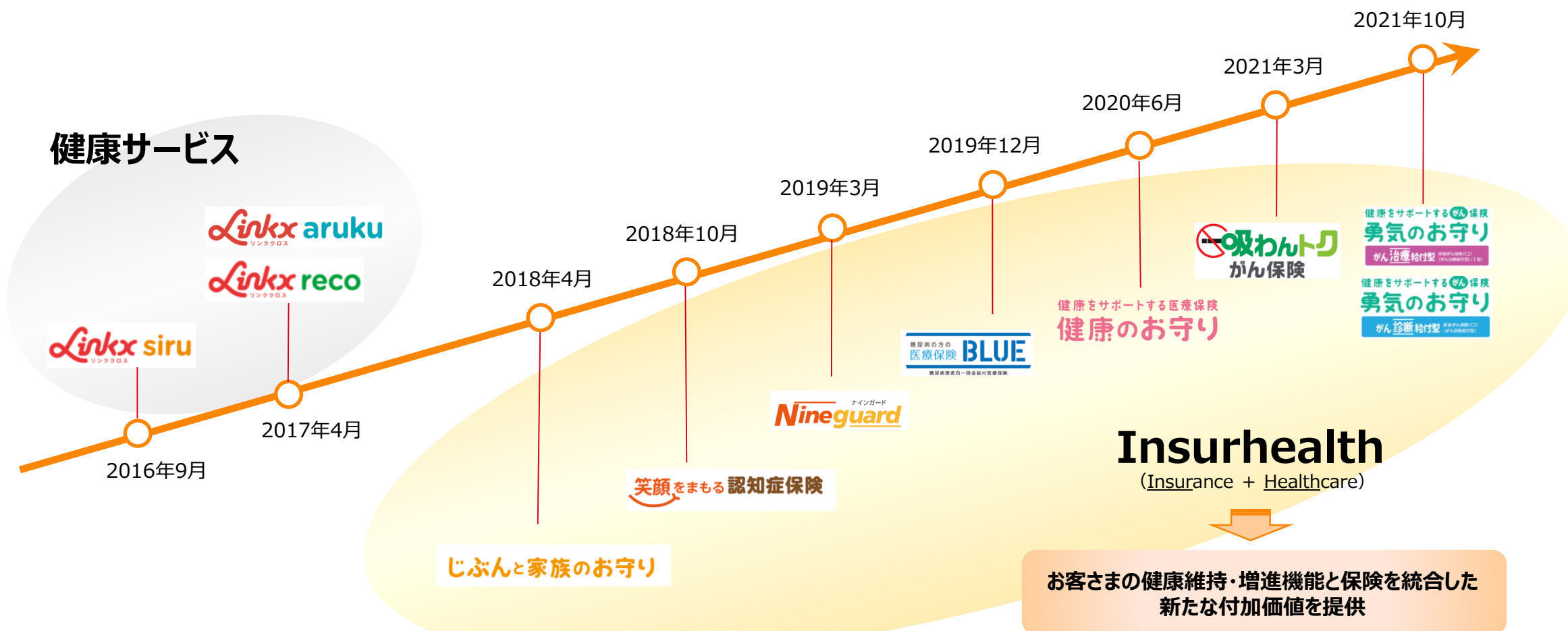


※ 2022年4月1日現在

ひまわり生命の特徴

- 健康応援機能と保険機能を融合した特徴ある新商品を展開し、他社との差別化を図っています。

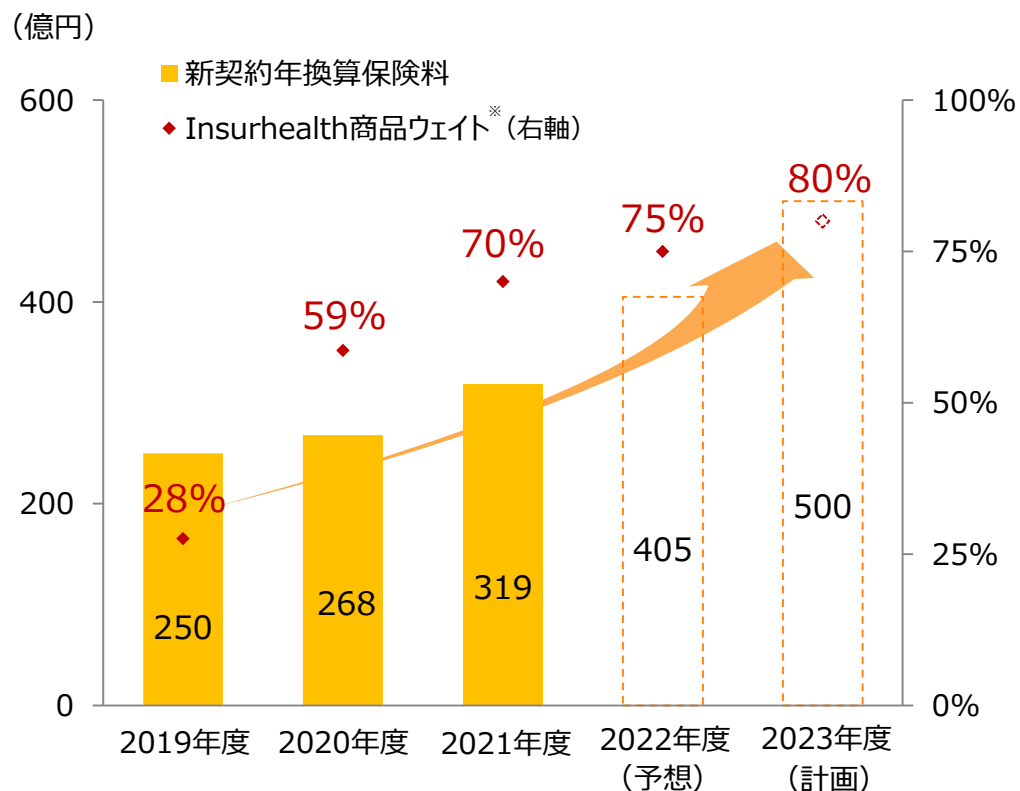
ひまわり生命の成長戦略



Insurhealthを基盤とした成長

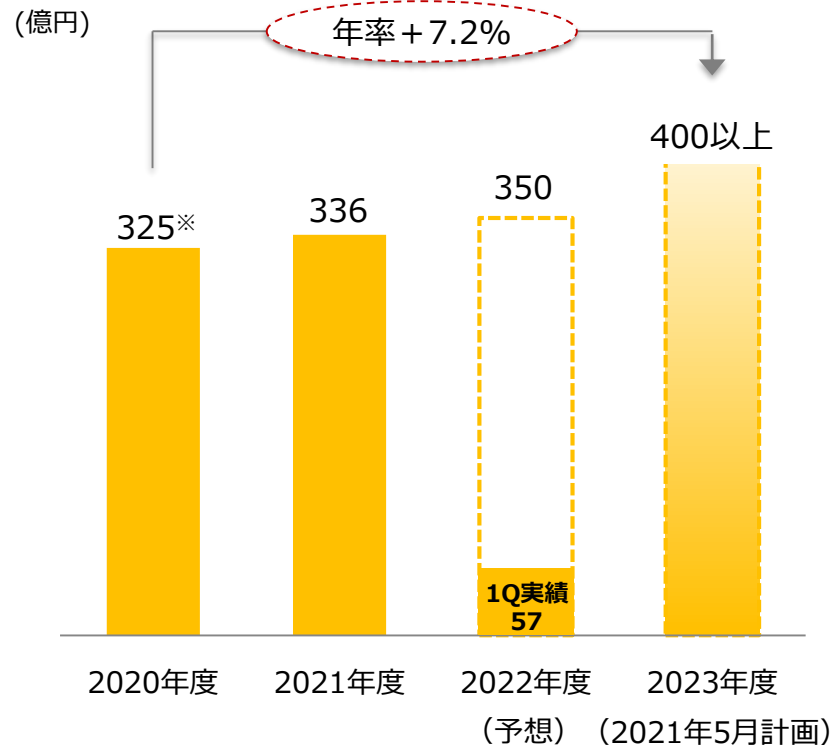
- 「健康応援企業」としてのポジションを確立させ、多くのお客さまにInsurhealthの価値を提供、安定的な成長を目指します。

Insurhealth商品の成長



※ 保障性商品に占めるInsurhealthウェイト

国内生保事業の修正利益



※ 2020年度修正利益は現行定義で再計算

SOMPOケアの特徴

- 売上高で業界2位、居室数で業界1位と、介護業界最大手の一角を占めています。
- 先進的なテクノロジーを駆使することで、サービス品質および生産性を向上させています。

介護事業者として業界最大手規模

介護事業売上高（2021年度）

1	A社※1	1,537億円
2	SOMPOケア	1,361億円
3	B社	1,273億円
4	C社※2	932億円
5	D社	688億円

出典：各社決算資料（一部は保育を含む）
※1 2019年度数値 ※2 2020年度数値

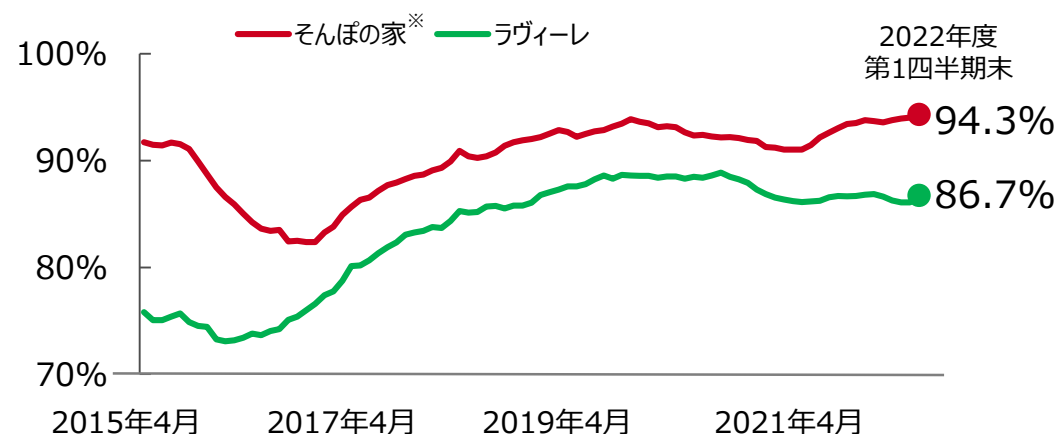
介護事業居室数（2019年8月時点）

1	SOMPOケア	25,574室
2	A社	17,520室
3	B社	13,945室
4	C社	12,246室
5	D社	11,003室

出典：週刊高齢者住宅新聞Online

SOMPOケアの入居率推移

サービス向上、生産性改善、人材育成などの取り組みにより入居率は着実に改善



※そんぼの家、そんぼの家Sの合算値

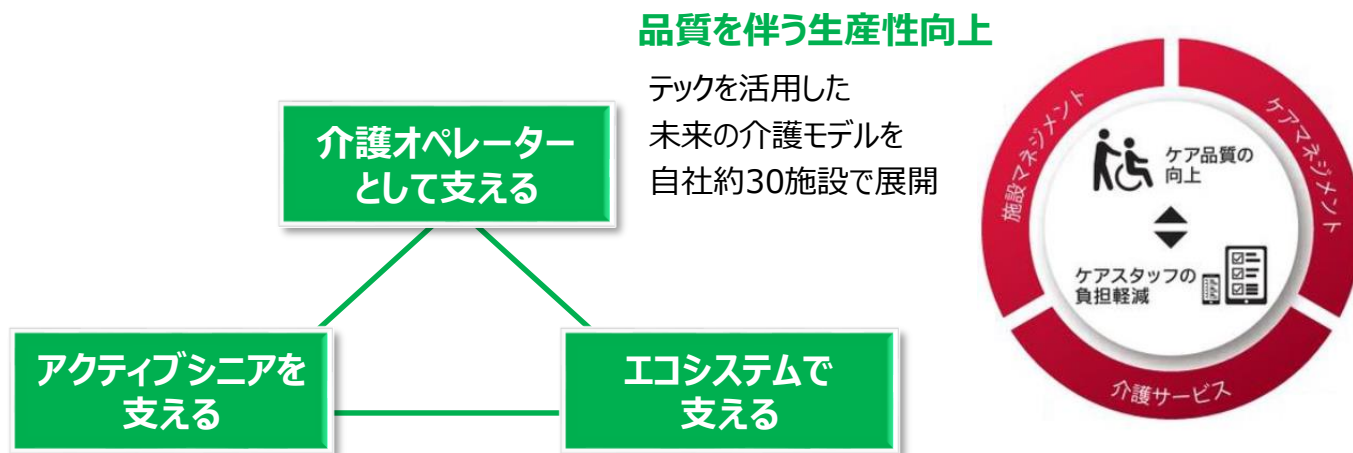
SOMPOケアの主な提供サービス



介護現場の課題解決への貢献

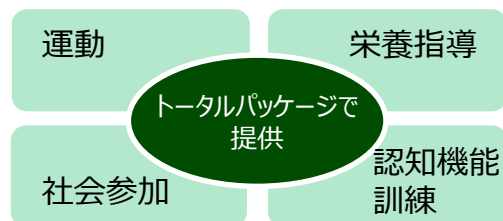
- 利益貢献だけでなく、介護現場の生産性向上、介護RDP（33ページ）、認知症サポートプログラムなど、社会課題の解決に貢献していきます。
- 介護周辺事業の展開を通じ、収益の安定化、収益源の多様化を目指します。

介護エコシステム構築に向けた主な取り組み



認知症予防プログラム

(SOMPO スマイル・エイジングプログラム)



リアルデータの活用

(リアルデータプラットフォーム)

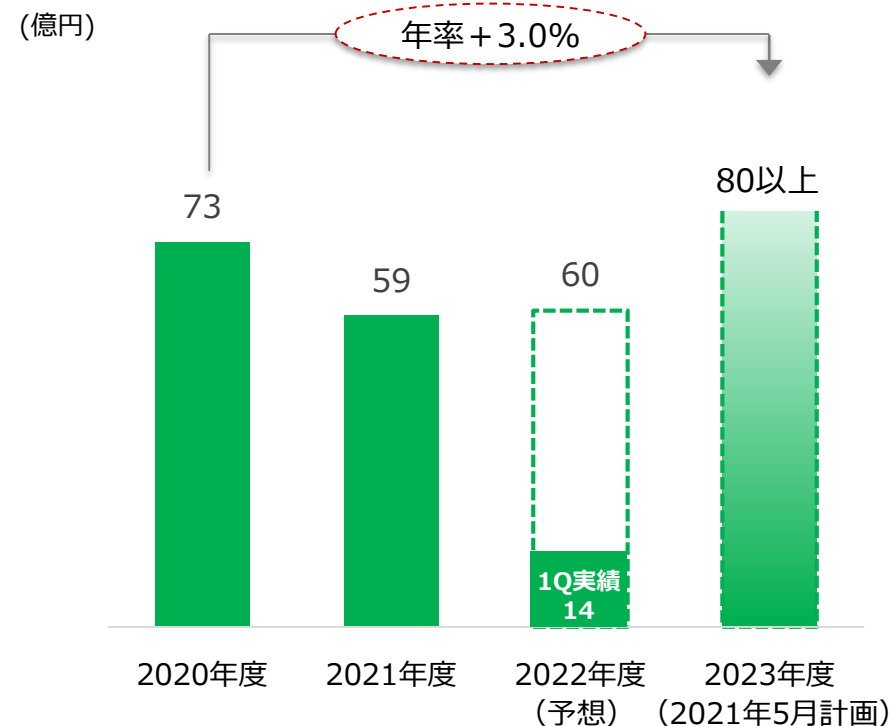
ケア記録・生体情報・食事記録等のデータを集約、見える化し活用

収益源の多様化

(ビジネスプロセスサポート)

介護周辺の新規事業を展開、収益源の多様化を目指す

介護・シニア事業の修正利益



1. SOMPOホールディングスとは

2. 事業別戦略

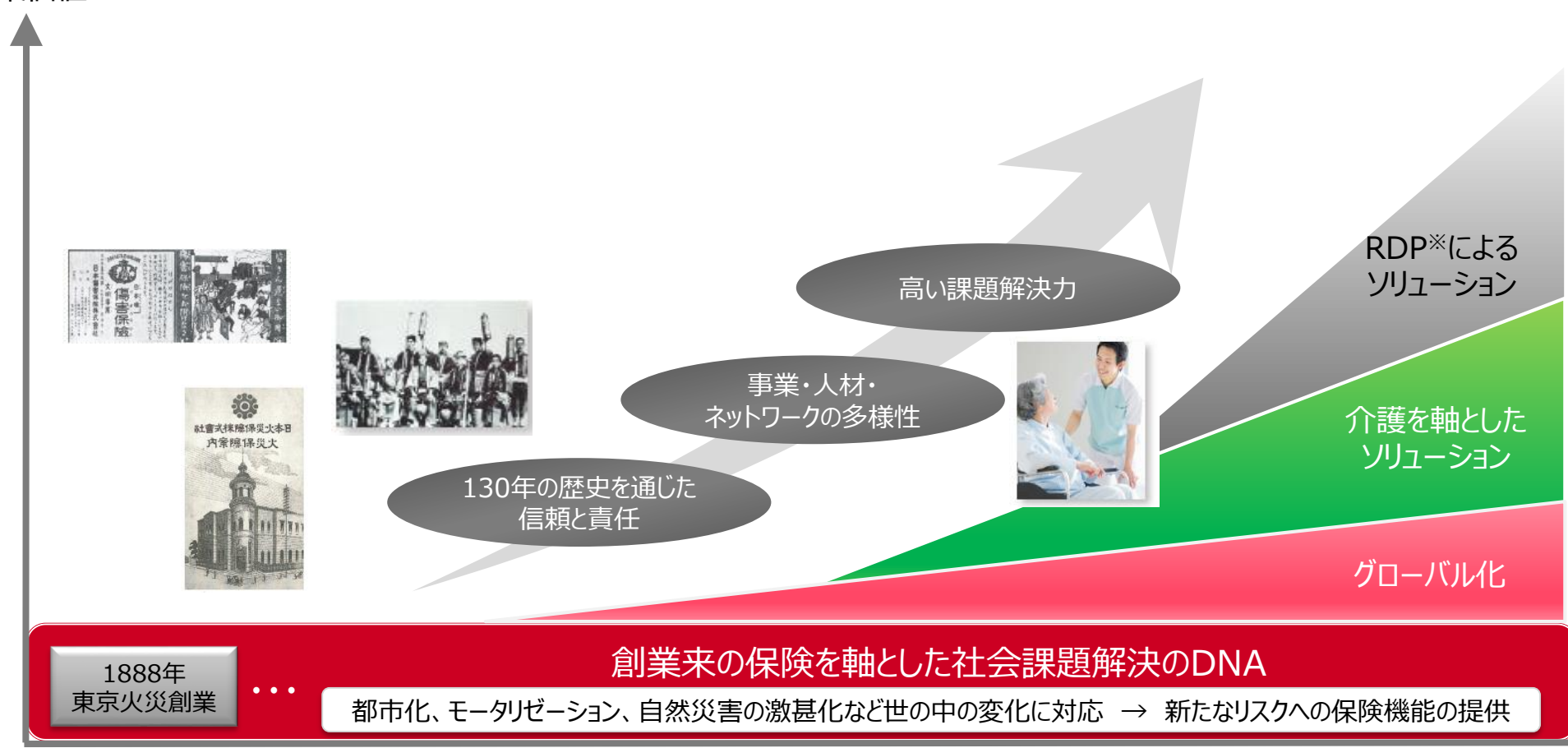
3. 中長期的な成長に向けて

4. 参考資料

社会課題の解決と成長

- 創業時の火災保険発売以来、変化する社会課題へ解を提供することで成長してきました。
- 保険会社の枠を超えたソリューションプロバイダーへと進化し、新たな成長曲線の創出による企業価値向上を目指しています。

企業価値



SOMPOのパーパス

“安心・安全・健康のテーマパーク”により、あらゆる人が自分らしい人生を健康で豊かに楽しむことのできる社会を実現します。

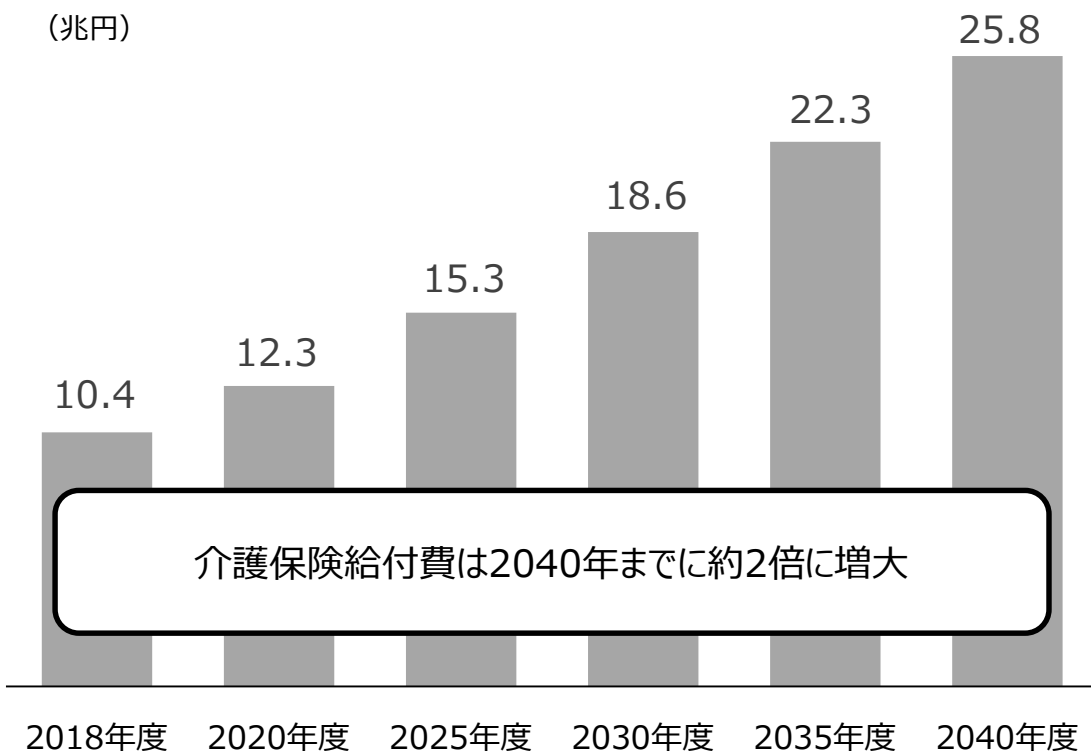
時間

※リアルデータプラットフォーム（詳細は33ページ以降参照）

介護業界の環境認識

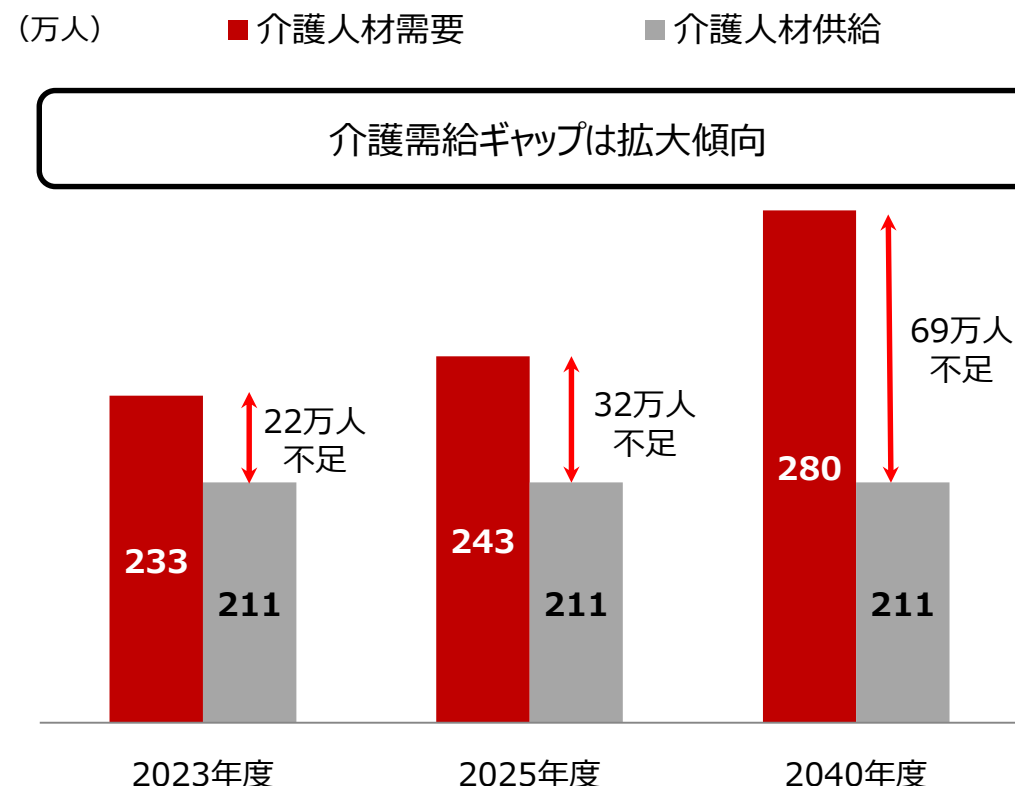
- 高齢化の進展により、持続可能な社会保障制度の構築が、わが国における喫緊の課題となっています。
- 介護の需要は供給を大きく上回ることが見込まれており、介護サービスを維持していくための生産性向上が必要不可欠な状況です。

介護保険給付費の将来推計



出展：国立社会保障・人口問題研究所 社会保障費用統計（平成30年度）
 内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）
 厚生労働省社会保障の給付と負担の現状（2020年度予算ベース）

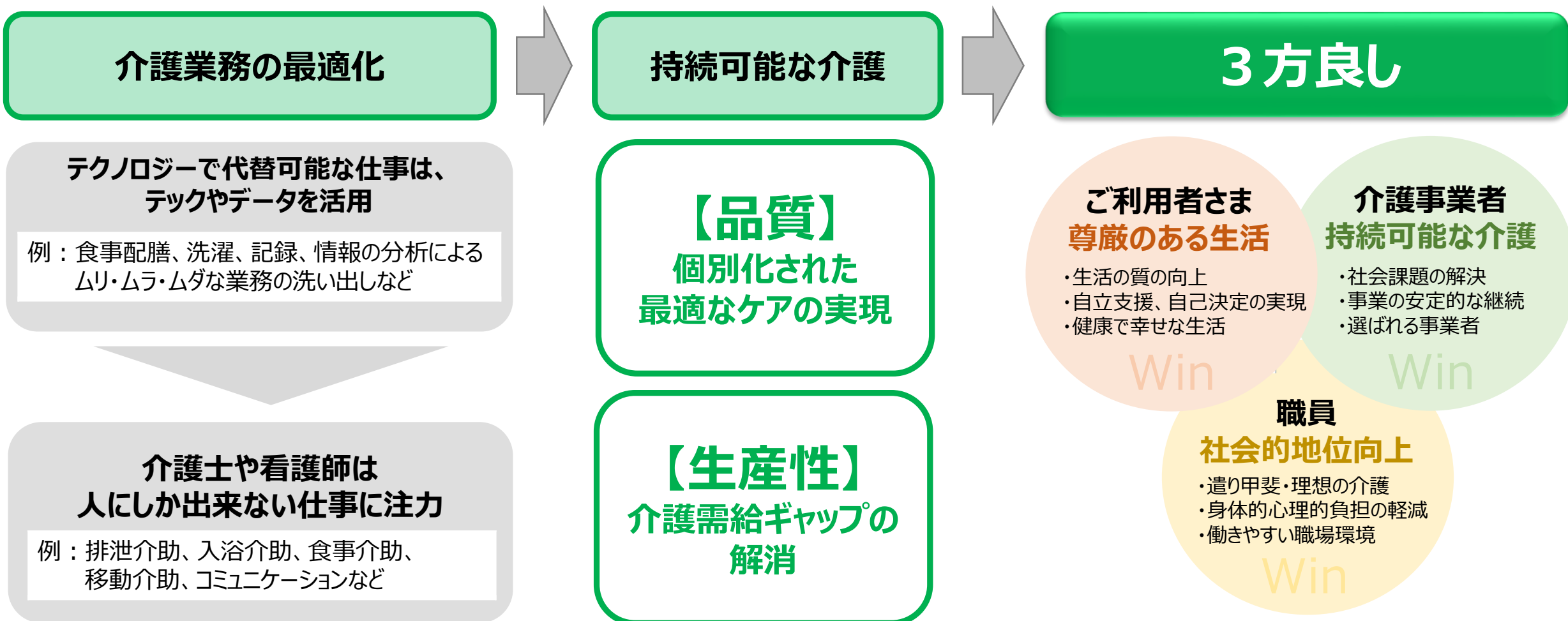
介護需要の拡大と介護人材供給のギャップ



出展：厚生労働省「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数」

SOMPOが目指す介護の「3方よし」

- ・ 介護現場の業務をテクノロジーを活用して最適化し、人にしかできない仕事に注力できる施設運営を目指し取組んでいます。
- ・ 持続可能な介護を実現することで、ご利用者さま・職員・介護事業者にとって3方良しの介護を目指します。



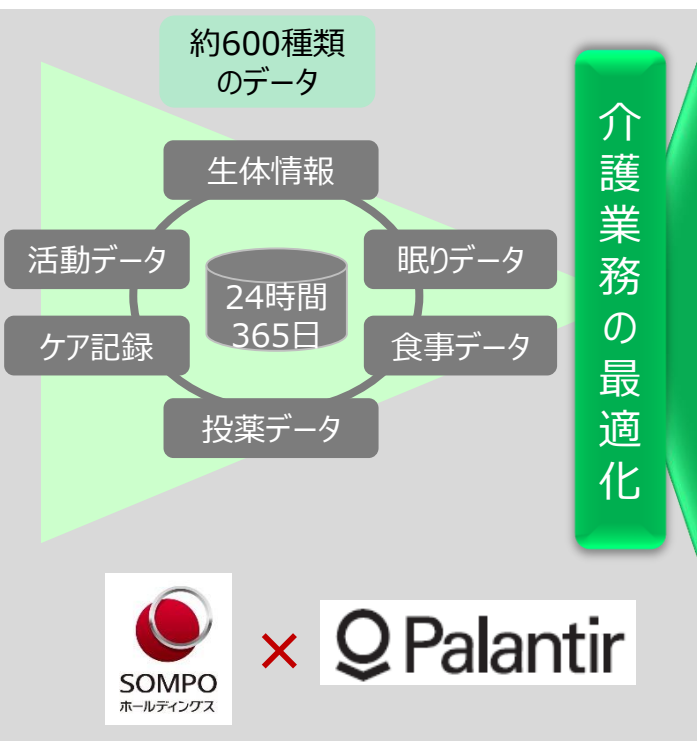
介護RDP（リアルデータプラットフォーム）による“介護の未来を変えていく”挑戦

- 介護現場の様々なリアルデータを活用し、情報の一元化、ノウハウの形式知・仕組み化、将来の状態予測による自立支援サポートなど、介護現場の業務を最適化するためのシステムです。
- 現在SOMPOケアの約30施設および、SOMPOケアが参画している国の実証事業や他の介護事業者での活用を開始しています。

介護現場のリアルデータを活用するプラットフォーム

2022年度内販売開始

介護現場のリアルデータ



見える介護

データを集約し、介護士によるケアやご入居者さまの状態が一目で分かる



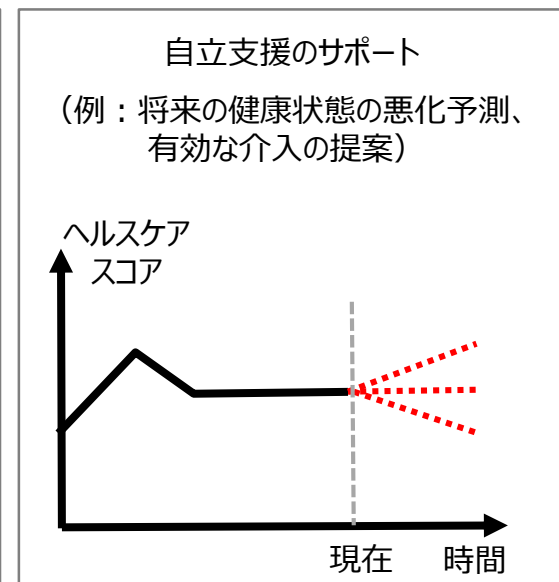
匠(ノウハウ)を仕組みに

優秀な管理者・介護士・専門職のノウハウを仕組みにして、介護品質と生産性を底上げ

- 体温や食事量・服薬データ等を分析し、入居者さまの体調管理を支援
(例：薬の調整を医師と連携)
- ケアプランやケア記録を分析し、ケアプランや要介護度の最適化を支援

予測する介護

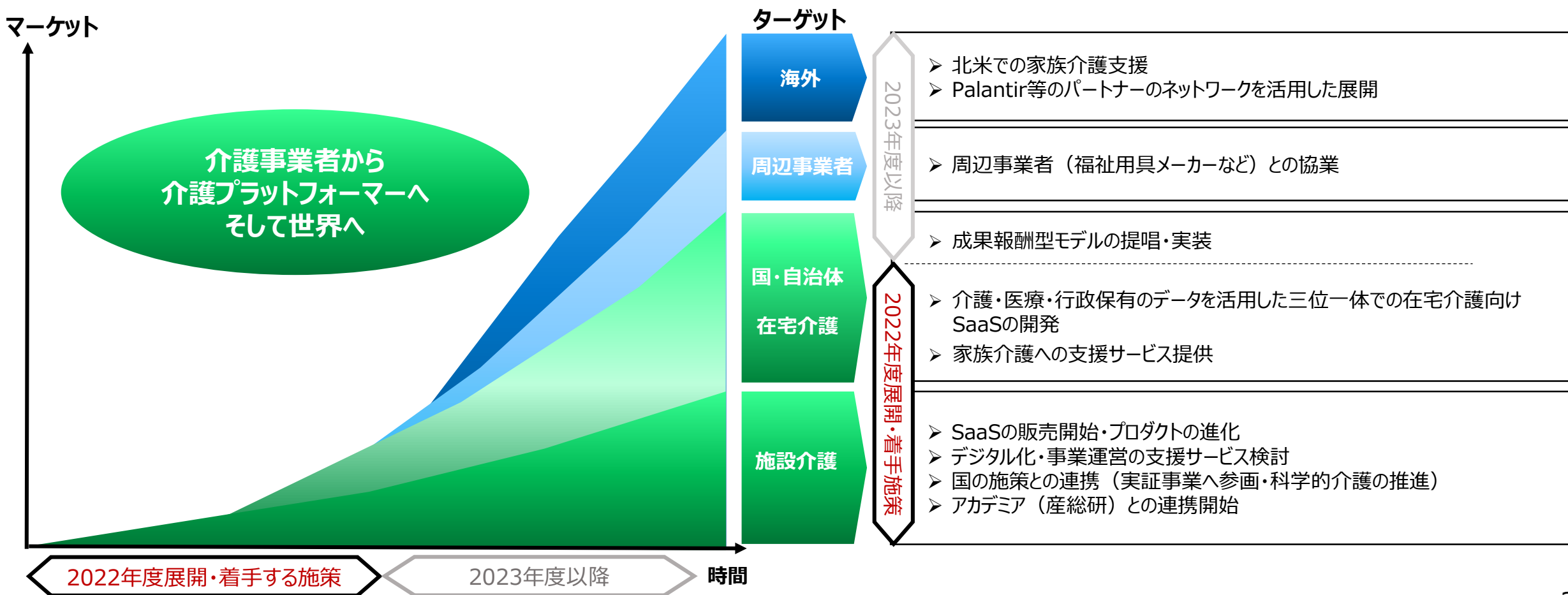
ビッグデータでご入居者さまの将来の状態を予測し、最適な介護を提供



介護RDPの取組みと今後の展望

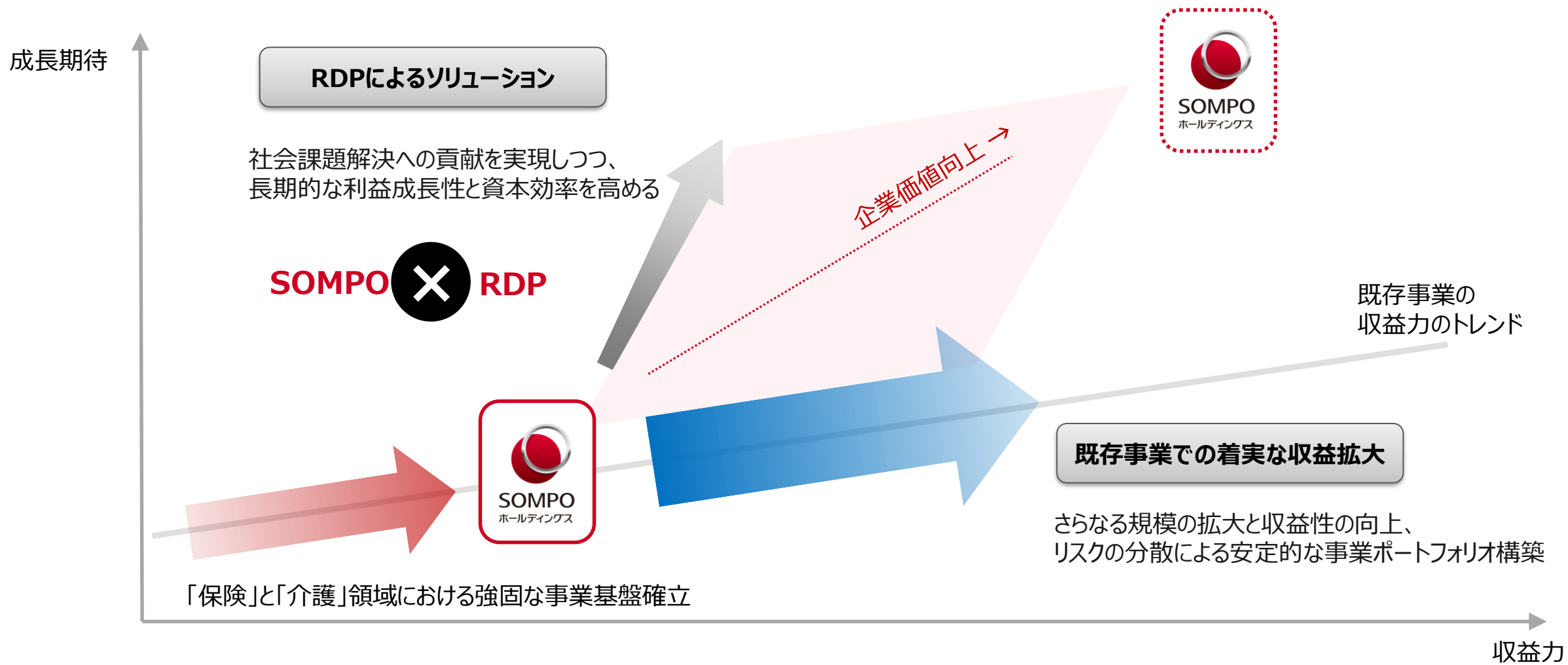
- 介護施設事業者へのサービス提供にとどまらず、国や自治体と連携した持続可能な介護保険制度および介護ビジネスモデルへの進化、周辺事業者との協業、そして将来的には海外への展開など、ビジネス拡大に向けてマーケット別の取組みに着手していきます。

介護RDPビジネスの広がりイメージ



企業価値の向上

- まずは国内外の保険事業を中心に、さらなる「規模と分散」の拡大を進め、収益力の向上を図ります。
- 加えて、介護を軸にしたプラットフォーム事業により社会課題を解決しつつ、保険事業とは異なる成長期待と資本効率を持つ新たな機軸を創り、サステナブルな企業価値の向上を目指します。



SOMPOホールディングスとは

- 1887年に損害保険会社として創業し、日本初の火災保険を発売
- 2014年9月、合併により現在の損保ジャパンが誕生、単体のマーケットシェアは業界トップクラスの約26%
- 国内生保事業、海外保険事業、当社グループの特徴である介護事業などの成長分野が拡大
- 過去10年間で国内損保に偏重した事業構成から大きくトランスフォーメーション

経営戦略等

- 2021年度からの3か年の中期経営計画期間は順調に進捗
「規模と分散」を追求し、最終年度の2023年度には修正連結利益3,000億円以上、修正連結ROE10%以上を目指す
- 安定した収益基盤、株主への高い利益還元姿勢を背景に、9期連続増配予定（2022年度）
- 従来の保険会社という形にとらわれず、介護領域、データ戦略など
社会課題を解決していくとともに、保険事業以外の分野でも成長できる企業へ

当社ホームページのご案内

- 最新の情報が確認できます。 → 「SOMPOホールディングス」で検索 (<https://www.sompo-hd.com/>)



1. SOMPOホールディングスとは

2. 事業別戦略

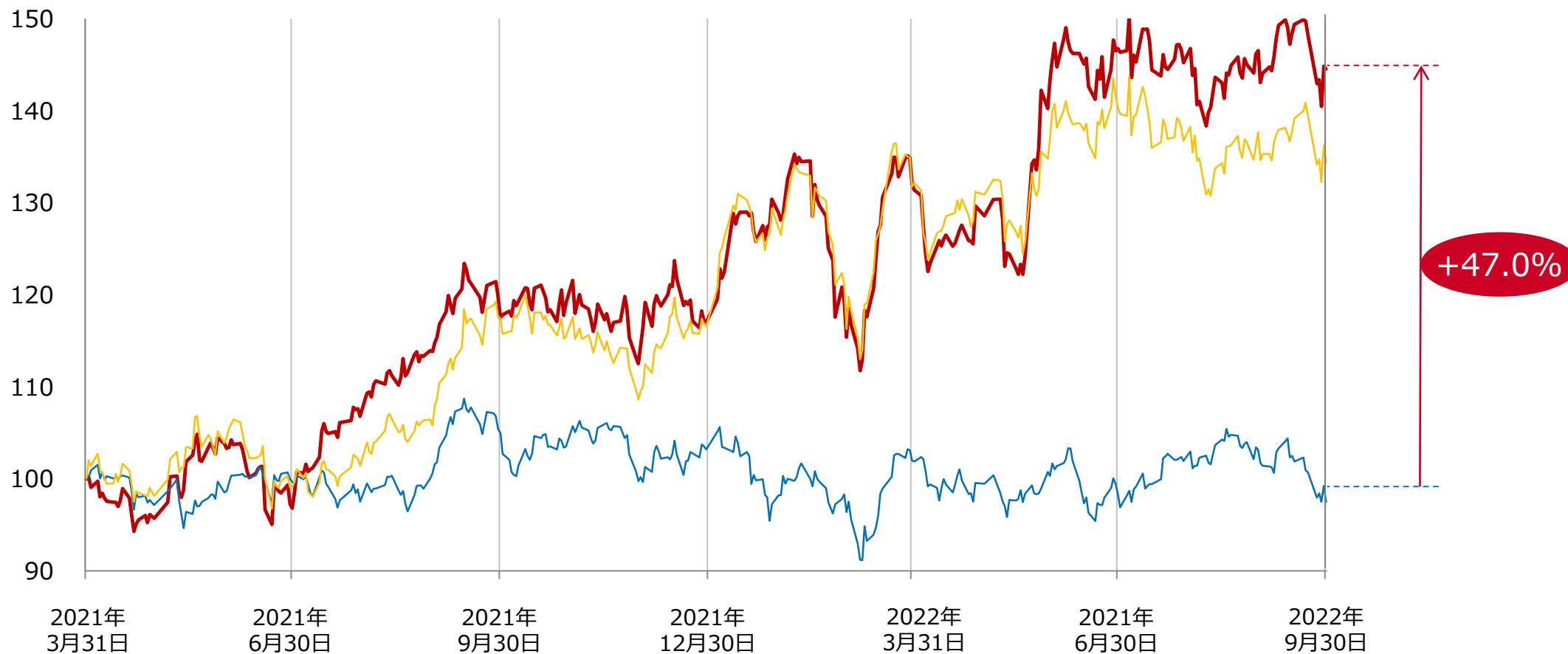
3. 中長期的な成長に向けて

4. 参考資料

トータル・シェアホルダー・リターン

トータル・シェアホルダー・リターン※の推移 (2021年3月31日～2022年9月30日)

— 当社
 — TOPIX
 — 東証株価指数(保険業)
 2021年3月31日を100とした指数



※ 株価の値上がり益と配当をあわせた総合投資利回り

グループ経営数値目標等

計画数値

(単位：億円)	2022年度第1四半期		2022年度	2023年度
	(実績)	(対前年増減)	(予想)	(計画)
国内損保事業	364	△244	1,200	1,500以上
海外保険事業	200	+29	1,000	1,000以上
国内生保事業	57	△37	350	400以上
介護・シニア事業	14	+3	60	80以上
デジタル事業等	3	+1	10	20以上
合計（修正連結利益）	639	△247	2,600	3,000以上
修正連結ROE※3	-	-	9.2%	10%以上
ROE（J-GAAPベース）	-	-	7.9%	-

修正連結利益※1の定義

国内損保事業

当期純利益
 + 異常危険準備金繰入額等（税引後）
 + 価格変動準備金繰入額（税引後）
 - 有価証券の売却損益・評価損（税引後）

海外保険事業

Operating Income※2
 なお、持分法適用関連会社は、原則当期純利益

国内生保事業

当期純利益
 + 危険準備金繰入額（税引後）
 + 価格変動準備金繰入額（税引後）
 + 責任準備金補正（税引後）
 + 新契約費繰延（税引後）
 - 新契約費償却（税引後）
 - 有価証券の売却損益・評価損（税引後）

介護・シニア事業

その他事業

当期純利益

デジタル事業

当期純利益
 - 投資に関する売却損益・評価損（税引後）

※1 事業部門別修正利益は、一過性の損益またはグループ会社配当等の特殊要因を除く。

※2 一過性の変動要素を除いたOperating Income（=当期純利益 - 為替損益 - 有価証券売却・評価損益 - 減損損失など）

※3 修正連結ROE = 修正連結利益 ÷ 修正連結純資産（分母は、期首・期末の平均残高）

修正連結純資産 = 連結純資産（除く国内生保事業純資産） + 国内損保事業異常危険準備金等（税引後） + 国内損保事業価格変動準備金（税引後） + 国内生保事業修正純資産
 国内生保事業修正純資産 = 国内生保事業純資産（J-GAAP） + 危険準備金（税引後） + 価格変動準備金（税引後） + 責任準備金補正（税引後） + 未償却新契約費（税引後）

主要財務数値（連結）

損益計算書（PL）

（億円）	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
正味収入保険料	25,503	28,547	27,181	28,254	29,235	32,157
生命保険料	3,238	3,469	3,496	3,560	3,461	3,251
経常利益	2,417	1,418	1,989	1,924	2,150	3,155
当期純利益	1,664	1,398	1,466	1,225	1,424	2,248

貸借対照表（BS）

（億円）	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
純資産	18,689	19,162	17,799	16,125	20,311	20,407
総資産	119,311	119,483	120,182	119,778	131,186	137,878

その他主要財務指標

（億円）	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
ROE（J-GAAPベース）	9.7%	7.6%	8.0%	7.3%	7.9%	11.1%
修正連結利益	1,832	1,627	1,135	1,508	2,021	2,613
修正連結ROE	7.6%	6.4%	4.5%	6.4%	8.0%	9.4%

※ 修正連結利益、修正連結ROEの数値は40ページの定義とは計算方法が異なる（主に国内生保事業に係る指標を変更）

将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。